



第34回

日伊ビジネスグループ 合同会議

開催報告書

2025年5月



日伊ビジネスグループ事務局
三菱重工業株式会社

i ITALY·JAPAN
BUSINESS
GROUP

第34回 日伊ビジネスグループ合同会議

2025年5月12~14日 於:ローマ



宮永 俊一
IJBG 日本側会長



Roberto Cingolani
IJBG イタリア側会長



Antonio Tajani
イタリア副首相兼
外務・国際協力大臣



Adolfo Urso
企業・メイドインイタリー大臣



加藤 良明
経済産業大臣政務官
(Video)



鈴木 哲
駐イタリア日本国大使



Gianluigi Benedetti
駐日イタリア共和国大使



片岡 進
日本貿易促進機構
副理事長



Matteo Zappas
イタリア貿易促進機構
会長



原 一郎
日本経済団体連合会
常務理事
(Video)



Giorgio Marsiaj
Confindustria
Aerospace Delegate



Andrea Montanino
CDP
Chief Economist

5/12 Welcome Reception (於：駐イタリア日本国大使公邸)



5/13 Outreach Session (於：カンチェッレリア宮殿)

Panel 1 「Intelligent Society」



Matteo Colaninno
Piaggio
Executive Chairman



Marco Casanova
ヤマザキマザックイタリア
社長



Antonello Mordeglio
Danieli Automation
President



Eduina Marino
Nippon Gases Italia
Industrial Relationship



Simone Bongiovanni
Studio Torta
Partner Attorney
(Moderator)

Panel 2 「Green Future」



Fabrizio Grillo
Bracco
Director Public Affairs &
International Relations



Paolo Bertuzzi
Turboned
CEO &
Managing Director



石川 知弘
三菱UFJ フィナンシャル・グループ
Chief Regulatory
Engagement Officer



Giuseppe Aurisicchio
Mermec
Executive
General Manager



Francesca Pizzi
日立ヨーロッパ
イタリア カントリーマネージャー



Giuseppe Tarantino
Studio Pirola Pennuto
Zei & A.
Tax Partner
(Moderator)

Startup Pitch



Alessandro Fabbri
Novac
Chief Executive Officer



Marco Moriani
ARCA Dynamics
Chief Operating Officer



Luca Ravagnan
Wise
Chief Operating Officer



Andrea Tabella
Invitalia
Inward Investment Manager

5/13 Plenary Session

VIP photo



アクションペーパー締結式



新規入会会員



井上 博貴
愛知産業
代表取締役社長



Diana Giorgini
Atla
Executive Manager



Marco Casanova
ヤマザキマザックイタリア
社長



芝田 浩二
ANA ホールディングス
代表取締役社長



Laura Macciò
ItalGas
Head of M&Z





5/13 Farewell Dinner (於：プラマンテ文化会館)

ウンベルト・アニエリ賞



近藤 正泰
IJBG 日本側事務局長

Marco Forzini
IJBG イタリア側事務局長

5/14 On site visit (於 : Fucino Space Center)



目 次

1. 日伊ビジネスグループについて	10
2. 会員リスト	11
3. 日伊ビジネスグループ合同会議実績	12
4. プログラム	24
5. 日本側出席者一覧	29
6. 伊側出席者一覧	30
7. 議事次第	33
8. プレゼンテーションスライド	59
9. イタリア経済概況	91

1. 日伊ビジネスグループについて



日伊ビジネスグループ (IJBG) 概要

1. 設立の背景 :

日伊ビジネスグループ (Italy-Japan Business Group : 略称 IJBG) は、1989 年に日本の三塚通産大臣(当時)とイタリアのルジェロ外国貿易大臣(当時)との合意により発足。主として、①貿易、②投資、③第三国市場協力の促進の為に民間企業を主体とした交流組織であり、日本は経済産業省、イタリアは外務・国際協力省、企業・メイドインイタリー省の支援の下に運営されている。

2. メンバー :

【日本側】

会 長	:三菱重工業 宮永俊一 名誉顧問 (IJBG 会長職 2023 年 4 月～)		
メンバ	:民間企業・団体 24 社		
後 援	:経済産業省		
事務局	:三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室 地域戦略部		
歴代会長	:1990～1999 年 大和證券 千野宣時 会長 2000～2009 年 資生堂 福原義春 会長 2009～2014 年 三菱重工業 佃和夫 会長 2014～2018 年 三井物産 飯島彰己 社長 2018～2023 年 IHI 齋藤保 相談役		

【イタリア側】

会 長	:レオナルド社 ロベルト・チンゴラーニ CEO (IJBG 会長職 2023 年 9 月～)		
メンバ	:各工業会会长会社・経済団体 (Confindustria/伊産業総連盟等)		
事務局	:イタリア貿易促進機構 (ITA)		
歴代会長	:1990～2004 年 フィアット自動車 ウンベルト・アニエッリ会長 2004～2007 年 ピニンファリーナ社 セルジオ・ピニンファリーナ会長 2007～2015 年 ヴィトロチセット社 ジョルジオ・ザッパ 社長 2015～2019 年 レオナルド社 マウロ・モレッティ CEO 2019～2020 年 伊日財団 ウンベルト・ヴァッターニ会長 2020～2023 年 レオナルド社 アレッサンドロ・プロフーモ CEO		

3. 活動内容 :

- 1989 年秋以降、年一回の合同会議を日伊両国で交互に開催し、両国の経済及び投資交流促進と日伊経済界の相互理解を深めるための意見交換を行っている。
- 基本的な活動分野は、貿易、投資、人的交流ならびに第三国市場協力であり、具体的には、市場分析、ジョイントベンチャーあるいは合弁事業の可能性の追求、中小企業支援、ビジネスマン交流プログラムの実施等を行ってきている。
- 成果 :
 - ① 日本輸出入銀行と伊中期信用中央金庫との情報交換協定の締結
 - ② 伊産業総連盟(CONFININDUSTRIA)とインドネシア投資調整庁間での貿易・投資協定の締結
 - ③ ボッコーニ大学への日本経済に係わる委託研究の実施
 - ④ 日伊貿易保険当局間の協力の構築
 - ⑤ リヨン・トリノ間高速鉄道トンネル工事に関わる日伊仏(アルプストンネル社)間の技術協力協定の締結
 - ⑥ ボスピラス海峡横断地下鉄プロジェクトに関する情報交換および共同調査等
 - ⑦ 投資交流促進のため「イタリアにおける日本人に対する労働ビザ」発給諸手続きの改善等
 - ⑧ 伊 ICE ・ 日本 JETRO による MOU 締結

以 上

2. 2025 年度 日伊ビジネスグループ 会員リスト

(会社名五十音順・敬称略)
2025 年 5 月時点

No.	会社・団体名	代表者	
		役職	名前
会長	三菱重工業株式会社	取締役	宮永 俊一
1	株式会社 IHI	特別顧問	斎藤 保
2	愛知産業株式会社	代表取締役社長	井上 博貴
3	旭化成株式会社	取締役会長	小堀 秀穂
4	いであ株式会社	代表取締役会長	田畠 日出男
5	ANA ホールディングス株式会社	代表取締役社長	芝田 浩二
6	株式会社荏原製作所	執行役建築・産業カンパニー プレジデント	永田 修
7	カナディア株式会社	取締役社長兼 COO	桑原 道
8	株式会社資生堂	取締役常務	直川 紀夫
9	株式会社シマブンコーポレーション	取締役会長	島田 博夫
10	鈴与株式会社	代表取締役会長	鈴木 与平
11	住友商事株式会社	専務執行役員	住田 孝之
12	株式会社日本パーカーライジング広島工場	代表取締役社長	中山 文宣
13	日本貿易振興機構	副理事長	片岡 進
14	野村ホールディングス株式会社	執行役員・野村ヨーロッパホール ディングス plc ヴァイス・チェアマン	本谷 大輔
15	株式会社日立製作所	執行役常務グローバル渉外統括本部長	平井 裕秀
16	丸紅株式会社	執行役員	岡崎 徹
17	株式会社みずほ銀行	常務執行役員	武 英克
18	三井物産株式会社	代表取締役会長	安永 竜夫
19	三菱重工業株式会社	取締役	宮永 俊一
20	三菱商事株式会社	執行役員グローバル総括部長	馬場 重郎
21	株式会社三菱 UFJ 銀行	副頭取執行役員	板垣 靖士
22	三菱ロジスネクスト株式会社	代表取締役社長	間野 裕一
23	八木通商株式会社	代表取締役社長	八木 雄三
24	ヤマザキマザック株式会社	取締役 常務執行役員	山崎 真嗣

(後援)

経済産業省	通商政策局 欧州課長	藤田 健
-------	------------	------

(オブザーバー)

外務省	欧州局 西欧課長	杉浦 雅敏
イタリア大使館 貿易促進部	部長	Gianpaolo Bruno
日本・東京商工会議所	専務理事	伊藤 仁

(事務局)

三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室 地域戦略部	事務局長	近藤 正泰
	事務局次長	周 君好
	事務局員	臼井 修
	事務局員	武藤 真澄

3. 日伊ビジネスグループ 合同会議開催実績(第1～34回)

(1) 第1回会合 89年10月24日 東京(通産省国際会議室)

- 日本側より松永通産大臣、鈴木通産審議官、千野会長等約50人、伊側よりルジェロ外国貿易大臣、アニエッリ会長等約40人が出席。(以下千野、アニエッリ両会長は省略)
- 欧州又は日本における産業協力、第三国市場協力、銀行・保険に関する協力等につき意見交換。

(2) 第2回会合 90年10月24日 ローマ(外務省)

- 日本側より浅尾駐伊大使(武藤通産大臣のメッセージを紹介)等、伊側よりルジェロ外国貿易大臣等総勢約140人が出席。
- セッション投資拡大、人材交流、中小企業交流支援、情報提供システムの確立、文化交流等につき議論。

(3) 第3回会合 91年10月30日 東京(経団連会館)

- 日本側より中尾通産大臣、岡松通政局長等、伊側よりアットリコ駐日大使、ペンサ外務省アジア担当全権公使等総勢約140人が出席。
- 若手ビジネスマン交換研修計画、情報交換システムの確立、投資促進、第三国市場協力につき討議。

(4) 第4回会合 92年10月27日、28日 ローマ(外務省)

(引き続き、29、30日、ジェノバ[IRI]で分科会を開催)

- 日本側より渡辺駐伊大使(渡部通産大臣のメッセージを紹介)等約50人、伊側よりコロンボ外務大臣、ヴィタローネ外国貿易大臣等約150人が参加。
- 中小企業育成、投資成功事例、企業経営方法、新開発地域における協力、生活大国(ライフスタイル)と経済大国等につき情報交換。

<第三国市場協力会合開催> 92年5月29日 プラハ(旧共産党迎賓館)

チェコ・スロヴァキア側よりハヌス・チェコ産業大臣、ホルキフ・スロヴァキア産業大臣、科学アカデミー経済計画委員長、中央銀行総裁等約70人、伊側より約45人が出席。

(5) 第5回会合 93年10月26日 東京(ホテル・ニューオータニ)

(本会合に先立ち22日、福岡で伊デザイン・セミナーを開催)

- 日本側より坂本通政局長、伊側よりガッリ駐日大使等、総勢約110人が出席。
- 第三国市場協力の促進、中小企業分野における協力、技術者交流プログラム、先端分野における協力につき意見交換。

<第三国市場協力会合開催> 93年10月28日 ジャカルタ(ヒルトン・ホテル)

- スハルト大統領を表敬訪問。
- インドネシア側よりハルタルト産業貿易調整大臣等及び日伊総勢約100人が出席。
- インドネシア投資調整庁並びに伊経団連(CONFININDUSTRIA)及びICEが貿易・投資協力協定を締結。

(6)第6回会合 94年10月27日 ローマ(外務省)

- 日本側より英駐伊大使(橋本通産大臣メッセージを紹介)等、伊側よりマルティーノ外務大臣等、総勢約130人が出席。
- 日伊政治経済情勢、中小企業交流、第三国市場(特にアジアにおいて、インフラ・プロジェクト等)協力会合等につき意見交換。

<第三国市場協力会合開催> 94年10月25、26日 チュニス(ホテル・アブナワス)

- アリ大統領を表敬訪問。
- チュニジア側よりガヌーシ国際協力大臣等及び日伊総勢約70人が参加。
- 98年4月、フォローアップとしてチュニジア観光省が在欧の日本の旅行会社関係者を招待。

(7)第7回会合 95年10月20日 東京(ホテル・オークラ)

- 日本側より細川通商政策局長、伊佐山通商政策局次長、伊側よりドミネド駐日大使等総勢約110人が出席。
- 日伊経済情勢、中小企業交流、第三国市場協力(今後の展開及びベトナムにおける協力の可能性)、貿易保険協力のフレームワーク構築に向けての取り組み、日伊協力の更なる展開につき意見交換した他、日伊BG規約を策定。

<第三国市場協力会合開催> 95年10月23、24日 ハノイ、ホーチミン

- ハノイではベトナム商工会議所(ポン副会頭)、国家協力投資委員会(スワン委員長)、国家計画委(フック副委員長)、チン官房長官を個別訪問。
- ホーチミンではソニーの工場、ホーチミン市協力投資委(ツー委員長)を訪問。

(8)第8回会合 96年10月28日 ローマ(外務省)

- 日本側より佐野通政局次長、伊側よりファントツィ外国貿易大臣、トイア外務政務次官等総勢150人が出席。
- 日伊経済情勢、ASEMフォローアップに関する日伊の協力、日伊投資交流の拡大、第三国市場協力(ASEMを踏まえ今後アジア重視を強調及びトルコにおける協力可能性)等につき意見交換。

<第三国市場協力会合開催> 96年10月30、31日 アンカラ、イスタンブール

- アンカラにおいては、政府関係者（カイタズ財務庁長官、オズフィラット国家計画庁長官、オイメン外務次官）との小人数朝食会を実施し、また、その他政府機関（アイハン公共事業住宅大臣、クタン・エネルギー天然資源大臣、バルツチュ運輸大臣等）を個別訪問。
- イスタンブールにおいては、両会長がタラ DEIK 会長を訪問した他、OKAN、TEFKEN、BM、GURISの各財閥と個別会合。

(9)第 9 回会合 97 年 10 月 24 日 東京(経団連会館)

- 日本側より堀内通産大臣（挨拶）、伊佐山通商政策局長、通産省宮田EU班長、（外務省より瀬木駐伊大使）、伊側よりプローディ首相（挨拶）、ファントツツイ外国貿易大臣他出席。
- 日伊両国の投資促進及び、フィリピンにおける協力の可能性について意見交換。

<第三国市場協力会合開催> 97 年 10 月 28 日 マニラ(ホテル・シャングリラ)

- フィリピンの経済状況、投資保護政策について、政府関係者から話を聞くとともに、今後の日伊協力可能性案件として、電力セクター、運輸・交通分野についてBOT案件を中心に現在計画段階のプロジェクトの概要を聴取した。
- 千野会長、オニダICE会長、堀江長銀相談役及び在フィリピン伊大使の 4 名がラモス大統領を訪問し、IJBGの趣旨を説明するとともに、今後の協力を求めた。

(10)第 10 回会合 98 年 10 月 20 日 ローマ(Villa Madama)

- 日本側より高市通産政務次官（挨拶）、瀬木駐伊大使、田辺通産省欧州課長他。伊側よりディー二外務大臣（挨拶）、ファントツツイ外国貿易大臣（挨拶）、トイア外務政務次官他。ゲストとしてルジェッロWTO事務局長他。
- 前回に引き続き日伊両国の投資促進及び、中小企業交流、イタリア南部開発、日伊の地方レベルの産業協力等について意見交換。
- 合同会合終了後、イタリア南部のフォッジャ、マンフレドニア、メルフィ、北部のビエッラ、トリベロの産業集積地を訪問。

(11)第 11 回会合 99 年 10 月 20 日 東京(赤坂プリンスホテル)

- 日本側より茂木通商産業政務次官（挨拶）、大賀ソニ一会長、宗国本田技研会長、英鹿島建設常任顧問ほか。伊側よりマルテツリ外務政務次官（挨拶）、メネガッティ駐日大使ほか。
- 前回に引き続き日伊両国の投資促進および、「マルチメディア」、「食品加工」、「観光」分野での業界交流を実施。

(12)第 12 回会合 01 年 2 月 13 日 ローマ(イタリア外務省国際会議場)

- 日本側より中山経済産業副大臣（挨拶）、山本駐伊臨時代理大使、石川日本郵船特別顧問、英鹿島建設常任顧問ほか。伊側よりディー二外務大臣（挨拶）、ダマート伊産業連盟会長ほか。
- 日伊両国の中小企業交流および投資促進、「人材育成」、「マルチメディア」、「環境と技術」の分

- 野における業界交流を実施。
- 合同会合終了後、エミリア・ロマーニャ州の中小企業を訪問。
 - 本会合より福原資生堂名誉会長が日本側議長を務める。

(13)第 13 回会合 01 年 10 月 23 日 東京(赤坂プリンスホテル)

- 日本側より古屋経済産業副大臣(挨拶)、大賀ソニー取締役会議長、室伏伊藤忠商事会長、宗国本田技研会長、田中直毅21世紀政策研究所理事長ほか。伊側よりマルツァーノ生産活動大臣、フォルゴミニー・ロンバルディア州知事、ニューディ産業復興公社社長、メネガッティ駐日イタリア大使ほか。
- 日伊経済情勢、IT がもたらす産業構造の変化について、中小企業を核とした日本とイタリアの産業協力等について意見交換。
- 「マルチメディア」「ソフト産業」の分野における業界交流を実施。

(14)第 14 回会合 02 年 10 月 6 日 ベルガモ(コンベンションセンター)

- 日本側より佐野忠克経済産業審議官(挨拶)、林駐伊大使、宗国本田技研会長、石川日本郵船特別顧問ほか、東京商工会議所および東大阪商工会議所からのミッショ也有り 118 名の参加。伊側はマルツァーノ生産活動大臣、フォルゴミニー・ロンバルディア州知事、ダマート伊産業連盟会長、メネガッティ駐日イタリア大使ほか 134 名が出席。総勢 252 名が参加。
- 日伊間における一層の貿易促進と中小企業交流に期待が寄せられたように、日伊双方より中小企業の参加も得られ、過去最大規模の会議となった。
- 「日伊の経済動向」「ロボット工学と将来」「ユーロ元年」といったマクロ的なテーマのほか、「イタリア中小企業の成功の秘訣」「イタリアの企業を惹きつける日本企業のファシリティ」を考察。

(15)第 15 回会合 03 年 10 月 21 日 東京(帝国ホテル)

- 日本側より中川経済産業大臣(挨拶)、山口日本商工会議所会頭、大賀ソニーネ誉会長ほか、東京商工会議所の協力も得て 123 名の参加があった。伊側はガラーティ生産活動省政務次官、チエルツティ伊産業総連盟副会長、ボヴァ駐日イタリア大使ほか 68 名が出席。総勢 191 名の参加者を数えた。
- 成長著しい中国市場を視野に入れての「日伊両国の経済動向」分析のあと、「環境問題」について討議し、日伊協力による第三国市場での事業展開まで考察した。
- 日伊の中小企業が 21 世紀を勝ち抜くための产学研連携による新技術開発事例や両国進出企業の成功事例などを通じ、「日伊投資間交流および日伊産業連携」の問題点等について討議。

(16)第 16 回会合 04 年 11 月 4 日 トリノ(リンゴット・フィエレ国際会議場)

- 福原日本側会長が事情により参加できず、根本・日本郵船名誉会長に日本側団長をお務めいただき、日本側より宗国本田技研特別顧問ほか 100 名超が参加
- イタリア側では、急逝されたウンベルト・アニエッリ氏の後任会長にセルジオ・ピニンファリーナ氏

が正式に就任しての初めての会合となった。本会議には伊側よりウルソ生産活動副大臣、モンテゼモーロ伊産業総連盟会長ほか 192 名が出席。

- 会議は、両国共通の問題である少子高齢化をも含んだ日伊経済動向の分析から、両国の先端テクノロジーの紹介および投資機会の創出に向けての議論が行われた。
- また、05 年の愛・地球博および 06 年のトリノ五輪に向けてのプレゼンテーションや「機械」「輸送」「観光投資」の 3 分野での分科会も開催され、参加者の関心を集めた。

(17) 第 17 回会合 05 年 6 月 9 日 東京(東京プリンスホテル パークタワー)

- 日本側から中川経済産業大臣(挨拶)、根本日本郵船名誉会長、東京商工会議所副会頭・関家ディスコ会長ほか 96 名が参加。また、イタリア側からは、ガラーティ生産活動政務次官、クインティエリ伊貿易振興会会长以下 97 名が出席。
- 中国の台頭とともにますますボーダレス化する国際市場において、知的財産権から日伊両国のもつ「ブランド戦略」と“ものづくり”からみた「産業クラスター」協力等に議論が白熱した。
- また、特異な分野での技術開発協力や産業提携への提案やイタリア自動車業界におけるグローバルプレイヤーとしての技術開発の紹介が行われた。

<IJBG 愛知会議 分科会・合同セッションおよびレセプション 05 年 6 月 10 日>

○ 繊維・テキスタイル部会(一宮地場産業ファッショントザインセンター)

- “ファッショ震源地”尾州・ビエッラの産業クラスター交流

○ 合同セッションおよびレセプション(名古屋東急ホテル)

- 松原名古屋市長、安井ブラザーカー会長、栗岡トヨタ相談役ほか日伊両国から約 80 名の参加者を数えた。
- 経済産業省・小川中部経済産業局長より「グレーターナゴヤとイタリアの産業交流の可能性」について講演いただき、理解を深めた。

(18) 第 18 回会合 06 年 10 月 12 日 カターニヤ(「ジャンカルロ・ディ・カルロ」会議場)

- シチリア島での開催にもかかわらず、日本側より北村経済産業審議官(挨拶)、中村駐伊大使、根本日本郵船名誉会長、宗国本田技研特別顧問ほか、東京商工会議所からのミッションも加わり 62 名の参加。伊側はボニーノ貿易大臣、ロンバルディ県知事、スカパニーニ市長、ボヴア駐日イタリア大使ほか 67 名が出席。総勢 129 名の参加があった。
- 日伊両国の経済概況のほか、「産業クラスター」や「先端技術」といった切り口からの日伊間協働でのビジネスモデルの構築や商標、製品のトレサビリティーの観点より知財についても継続的に考察を行った。

(19) 第 19 回会合 07 年 6 月 13 日 東京(イタリア文化会館「アニエッリホール」会議場)

- 日本側より甘利経済産業大臣(挨拶)、KEN OKUYAMA DESIGN 奥山代表、塚本 JETRO 副理

事長ほか 118 名が参加。また、イタリア側からはアゴスティーニ国際貿易省政務次官、ボヴア駐日全権イタリア大使以下 40 名が来日した。

- 日伊間投資交流の展望について、3 つのセッションを設けパネラーによるスピーチとディスカッションを実施。イタリア進出日本企業の投資や金融活用による企業買収の事例、環境・バイオテクノロジー分野での日伊協働のビジネスモデルの可能性などを紹介した。
- 合同会議の翌 14 日には静岡県浜松市の産業クラスターの視察を実施した。

(20)第 20 回会合 08 年 5 月 7 日・8 日 ベニス・サンセルヴォ島(ベニス国際大学)

- 日本側より萩原経済産業省政務官、中村駐伊日本大使、武藤前日銀副総裁ほか 90 名が参加。イタリア側からはカチャリ ベニス市長(挨拶)、ゾッジア ヴェネツィア県知事(挨拶)、ボヴア駐日全権イタリア大使、モンテゼモーロ イタリア産業総連盟会長以下 161 名が参加した。
- 世界経済における日伊両国の展望を経済・金融面から考察するとともに、両国協力枠組みの強化に向け、経済連携協力の早期実現や気候変動問題への対応、知的財産保護の強化といった観点から協力していくことで一致した。
- 9 日には産業視察として、2 つの班に分かれトレヴィーゾ産業クラスター、ベニス産業クラスターへの視察を実施した。

(21)第 21 回会合 09 年 9 月 17 日 東京(イタリア文化会館「アニエッリホール」会議場)

- IJBG 発足以来始めて、ジョルジオ・ナポリターノ イタリア共和国大統領にご臨席賜りスピーチをいただいた。日本側より岡田経済産業省通商政策局長、安藤駐イタリア日本国特命全権大使、竹中平蔵元金融・経済財政政策担当大臣、飯村政府代表ほか 150 名が参加。イタリア側からはウルソ経済振興省副大臣、ゼニヤ イタリア産業総連盟副会長、アルクーリ インヴィタリア CEO ほか 189 名が参加。
- 本年度より導入した4つの分科会の総括として、各ワーキンググループの代表によるスピーチ、ディスカッションを実施。現在実施している日伊企業間交流の発表や今後の方向性について討議し、今回の会合を総括したコミュニケ(日伊ビジネスグループ共同宣言文書)を公表した。
- 本会合を以って、日本側会長が福原義春 資生堂名誉会長より佃和夫 三菱重工業会長へと交代となった。

(22)第 22 回会合 10 年 10 月 29 日 ローマ(カピトリーノの丘「ジュリアス・シーザーの間」)

- 日本側より甘利衆議院議員、石毛経済産業省顧問、安藤駐イタリア日本国特命全権大使ほか 98 名が参加。イタリア側からはアレマンノ ローマ市長、ウルソ経済発展省副大臣、スコッティ外務次官ほか 147 名が参加。
- 日本・EU 間における経済連携の重要性につき見解共有し、IJBG として、合同ハイレベルグループが経済協定の締結に向けての交渉における適切な条件を形成するよう促すことに合意した。
- 昨年度に引き続き、4つの分科会(中小企業交流、ビジネス環境整備、エネルギー、自然災害管理)の総括として、各ワーキンググループの代表によるスピーチ、ディスカッションを実施すると

もに、今回の会合を総括したコミュニケ(日伊ビジネスグループ共同宣言文書)を公表した。

- 28 日には、2 班に分かれ産業視察(宇宙・防衛電子産業、製薬産業)を実施した。

(23)第 23 回会合 11 年 10 月 5 日 京都(国立京都国際会館)

- 日本側より門川京都市長、甘利衆議院議員、中富経済産業省特別通商交渉官、河野駐イタリア日本国特命全権大使ほか 110 名が参加。伊側からはクラクシ外務政務次官、ペトローネ駐日大使ほか 52 名が参加。
- 今回の会合を総括したコミュニケ(日伊ビジネスグループ共同宣言文書)を公表した。
- 第 20 回日 EU サミットにて日 EU 間の経済連携の交渉開始の合意がなされたことに対し、IJBG としてこれを歓迎し、スコーピング作業の加速を要望する見解を共有した。
- エネルギーのセッションでは、震災後のエネルギー戦略が問われている日本と、国民投票で原発再稼動計画を凍結したイタリアの両国有識者より発表が行われた。
- 震災復興のセッションでは、被災地や原発で活躍するロボット、地震予知、海底地震波の観測・研究、地震発生後の事業継続に資する建築物等をテーマに有識者より発表が行われた。
- 4 日には、分科会(中小企業交流、ビジネス環境整備、エネルギー、自然災害管理)を開催した。
- 6 日には、2 班に分かれ産業視察(NEC 関西研究所、三菱重工神戸造船所)を実施した。

(24)第 24 回会合 12 年 10 月 24 日 カターニャ (カターニャ文化会館)

- 日本側より本多 経済産業大臣政務官、河野駐イタリア日本国特命全権大使、横尾ジェトロ副理事長ほか 53 名が参加。伊側からは、ミストゥーラ 外務政務次官、スタンカネッリ カターニャ市長、ペトローネ駐日大使ほか 87 名が参加。
- セッション A 「ユーロ危機と対応策」、B 「日・EU 経済連携と第三国協力」、C 「技術革新と産業発展」、D 「再生可能エネルギーとスマートシティ」、E 「高齢化社会」、F 「持続可能な食品産業のための新技術」 の 6 つのテーマにてパネルディスカッションが行われた。
- 日 EU 経済連携協定 (EPA) 交渉の早期開始を念頭に、来春の日 EU 首脳会談に向け両国政府が前向きに取り組むことを求めた。
- 今回の会合を総括したコミュニケ(日伊ビジネスグループ共同宣言文書)を公表した。
- 25 日に産業視察としてセレックスエスラグ社、トレーン社、シチリア科学技術パークを訪問した。

(25)第 25 回会合 13 年 10 月 24 日 東京(国際文化会館)

- 日本側より田中経済産業大臣政務官、河野駐イタリア日本国特命全権大使、宮本ジェトロ副理事長ほか 103 名が参加。伊側ではアルキ外務副大臣、ジョルジ駐日イタリア特命全権大使ほか 76 名が参加。
- 日 EU EPA セッションでは、シュヴァイスゲート駐日欧州連合大使と経済産業省 鈴木通商政策教局長が登壇した。
- 「日伊エネルギー政策と未来への投資」、「高齢化社会とビジネス」、「両国の投資事例と経営論」の3つのテーマでパネルディスカッションセッションが行われた。

- 2013 年 4 月に経済連携協定(EPA)交渉が開始されたことを受け、IJBG はこれを歓迎し、日欧両政府が交渉を更に前進させ、協定を可及的速やかに締結することを求めた。
- 今回の会合を総括したコミュニケ(日伊ビジネスグループ共同宣言文書)を公表した。
- 23 日に JETRO にて IJBG・JETRO・ICE 共催のスマートエネルギーに関するビジネスワークショッピングを開催し、両国官民代表者による発表とネットワーキングセッションを実施した。
- 25 日にパシフィコ横浜で開催された展示会「Smart City Week2013」を視察した。

(26) 第 26 回会合 14 年 10 月 28 日 トリノ(Parazzo Madama)

- 初代イタリア側会長であるフィアット社アニエリ氏の十回忌を記念しトリノで開催され、ヴィトロチセット会長 ジョルジョ・ザッパ氏と三井物産社長 飯島彰己氏が共同議長を務めた。
- 日本側より石黒経済産業審議官、梅本駐イタリア日本国特命全権大使、宮本ジェトロ副理事長、岩瀬農林水産省次長ほか 67 名が参加。伊側ではファッジーノトリノ市長、カレンダ経済振興副大臣、ジョルジ駐日イタリア特命全権大使ほか多数参加。
- IJBG は、両国企業が幅広い分野で協業、共同事業を推進し、更なる拡大の重要性について一致した。現在交渉中の日 EU・EPA 交渉に関し、包括的かつ高いレベルの協定を実現するため、2015 年中の大筋合意を目指して、交渉を加速化させるよう、日本政府及び欧州連合に強く求めれる。
- 「観光促進」「ビジネス協業」「食」のテーマでパネルディスカッションセッションが行われた。
- 24 日に Environment Park にて、JETRO・ICE 共催の Smart Energy seminar を開催、両国官民代表者による発表と意見交換を実施した。
- 25 日に産業視察として Alenia Aermacchi 社を視察した。

(27) 第 27 回会合 15 年 11 月 16 日 仙台(ウェステイン仙台)

- 東日本大震災から約 4 年半が経過した被災地の復興の状況を、日イタリア双方の参加者が確認し、また支倉常長率いる遣欧使節団訪伊 400 周年を記念すべく、宮城県仙台市で開催された。先立ち前晚には、復興の象徴である仙台うみの杜水族館にてウェルカムパーティーを開催、17 日にはみやぎ復興パーク(多賀城市)を視察した。
- 新たに伊側会長にフィンメカニカ社マウロ・モレッティ C.E.O.が就任、日本側会長の三井物産飯島彰己会長と共に共同議長を務め、両国公的部門及び民間部門からも、デッラ・ベドヴァ外務協力政務次官、ジョルジ駐日イタリア特命全権大使、並びに星野経済産業大臣政務官、梅本駐伊日本国特命全権大使をはじめとし、地場からも村井宮城県知事、高橋東北経済連合会会長他、日本側加盟企業以外を含め延べ 150 名以上の参加を得た。
- 「航空・交通」「イノベーション」「食」についてパネルディスカッションを行い、共通理解を深めると共に、二国間関係の更なる発展が重要であることを認識。両国企業・団体が幅広い分野で協業、共同事業を推進し、更なる拡大を目指すことについて一致した。特に 2015 年 10 月を以て閉幕したミラノ国際博覧会が、両国の強みを持つ食の分野をはじめ、各種の分野で大きなビジネスチャンスとなり得たことを再確認した。

- 現在交渉中の日 EU・EPA 交渉に関し、包括的かつ高いレベルの協定を実現するため、2015 年 5 月に日 EU 首脳間で一致したように合意の実現に向け交渉を加速化させるよう、日本政府及び欧州連合に強く求める。

(28) 第 28 回会合 16 年 11 月 25 日 ミラノ(ロイヤルパレス)

- イタリア側・マウロ・モレッティ会長(レオナルド社 CEO)と日本側・飯島彰己会長(三井物産株式会社・会長)が共同議長を務める中、日本側からは片瀬・経済産業審議官、梅本・駐イタリア日本国大使、米谷・日本貿易振興機構(ジェトロ)理事、イタリア側からはデラベドバ外務政務次官、ジョルジ駐日イタリア大使、スキャナビーニ・イタリア貿易振興会長などにご列席頂き、両国の官民合わせて 120 名余りが合同会議に参加した。
- パネル討議は「交通」、「機械」、「宇宙」、「デザイン」の4部構成となった。各国それぞれ 3 人ずつの登壇者によるパネル討論が行われた。今回の特徴としては宇宙航空研究開発機構 JAXA (ジャクサ) や日本デザイン振興会にもパネル討議に参加頂き、民間企業に拘らない日本とイタリアの企業間の協業についても事例が説明された。またイタリア側より産業界に加え学術界からも厳選した有識者モレーターが参加し、活発な意見が交換され、各テーマに関して両国メンバー間の共通理解を深めることができた。
- 2016 年は日本とイタリアが 1866 年に日伊修好通商条約を締結してから 150 周年にあたり、IJBG を通じた両国の経済関係の深化に留まらず、日本と EU 間の経済連携協定(EPA)の早期合意の実現が期待されていることが確認された。

(29) 第 29 回会合 17 年 10 月 24 日 金沢(ホテル日航金沢)

- 今回の合同会議は 15 回目の日本側開催となつたが、東京以外の都市での開催は京都(第 23 回)、仙台(第 28 回)に続き 3 回目となつた。
- イタリア側・マウロ・モレッティ会長(イタリア鉄道基金・会長)と日本側・飯島彰己会長(三井物産株式会社・会長)が共同議長を務める中、日本側からは田中・経済産業省通商政策局長、片上・駐イタリア日本国大使、入野・日本貿易振興機構(ジェトロ)理事、イタリア側からはスカルファロット経済発展省政務次官、スタラーチェ駐日イタリア大使、地元からは谷本・石川県知事、久和・北陸経済連合会長などにご列席頂き、両国の官民合わせて 160 名余りが参加した。
- パネル討議は「新技術とイノベーション」、「食と農」、「ものづくり」、「投資とバンкиング」の 4 つのパネルディスカッションに加え、観光促進に関するスピーチが行われ、31 名に上るパネリストとモレーターが登壇し、活発な議論と有意義な意見交換が行われた。
- 本年 7 月に大枠合意した日 EU・EPA は両国間の貿易や投資を促進するプラットフォームとなる大変意義のあるものであり、共同声明において IJBG として同 EPA の早期発効を後押しすると共に、日伊両国の経済の連携の更なる深化に貢献することを確認した。

(30) 第 30 回会合 18 年 10 月 18 日 ナポリ(University of Naples Federico II)

- イタリア側・マウロ・モレッティ会長(イタリア鉄道基金・会長)と日本側・斎藤保会長(株式会社 IHI

会長)が共同議長を務める中、日本側からは石川昭政・経済産業大臣政務官、片上 慶一・駐イタリア日本国大使、入野泰一・日本貿易振興機構(ジェトロ)理事、イタリア側からは、ジェラーチ 経済振興省政務次官、スタラーチェ駐日イタリア大使、カンパニア州のファシオーネ評議員、マギストリス・ナポリ市長などにご列席頂き、両国の官民合わせて 180 名余りが参加した。

- パネル討議は、「投資とバンキング」、「スマートな未来へのソリューション(インフラ、産業およびサービスにおける新技術とイノベーション)」、「交通と移動」の3分野に関し、活発な意見交換がなされ、両国メンバー間の共通理解を深めることができた。
- 特別パネルとして「経済連携協定(EPA)実施後の日・EU 商業関係の今後の展望」について、両国の関係省庁の代表者が、イタリアと日本の視点から、EPA の利点を説明した。
- 日 EU 経済連携協定(EPA)が、2018 年 7 月に東京で署名されたことは重要なステップであり、翌年から両国の産業は EPA の恩恵を享受することができ、イタリアと日本の二国間関係を強化する特別な機会となることを、共同声明にて確認した。

(31) 第 31 回会合 19 年 11 月 15 日 東京(イタリア文化会館)

- イタリア側・ウンベルト・ヴァッターニ臨時会長(伊日財団会長)と日本側・斎藤保会長(株式会社 IHI 会長)が共同議長を務める中、日本側からは、甘利明・日伊友好議員連盟会長、宮本周司・経済産業大臣政務官、片上 慶一・駐イタリア日本国大使、信谷和重・日本貿易振興機構(ジェトロ)副理事長、イタリア側からは、スカルファロット外務・国際協力省政務次官、スタラーチェ駐日イタリア大使、フェッロ・イタリア貿易促進機構会長などにご列席頂き、両国の官民合わせて 170 名余りが参加した。
- パネル討議は、「Smart Cities & Renewable Energy」、「Medical & Healthcare」、「Digital Economy」の3分野に関し、民間のみならず大学や研究機関を交えての活発な意見交換が行われ、両国メンバー間の共通理解を深めることができた。
- 今回、新たな試みとして特別セッション「スタートアップ」を設け、両国のスタートアップ 8 社から、オリジナリティあるビジネスモデルの紹介が行われた。
- 2019 年に発効した日 EU EPA は両国間貿易の増加をもたらしたが、IJBG は今後とも、日 EU EPA の締結によって実現した両国間貿易に関するモメンタムを維持し、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック、2025 年の大坂万博を良い機会として、さらなる強化に協力していくことを、共同声明にて確認した。

(32) 第 32 回会合 2022 年 12 月 1 日 ベネチア(ベネチア国際大学)

- 今回の合同会議はコロナ禍による 2 年間の中止を経て、3 年ぶりに対面で開催された。
- イタリア側・アレッサンドロ・プロフーモ会長(レオナルド社 CEO)と日本側・斎藤保会長(株式会社 IHI 相談役)が共同議長を務める中、日本側からは、廣田 司 在イタリア日本国大使館次席公使、信谷 和重 日本貿易振興機構(ジェトロ)副理事長、イタリア側からは、マリア・トリポーディー外務・国際協力省政務次官、ジャンルイジ・ベネデッティ駐日イタリア大使、カルロ・フェッロ イタリア貿易促進機構(ITA)会長などにご列席頂き、両国の官民合わせて 100 名弱が参加した。

- 日伊の政府関係者からは、コロナ禍やウクライナ情勢により日伊両国企業は困難に直面しているが、IJBG 等を通じて再生可能エネルギーへの転換や連結性推進などに資する日伊企業間協力を後押ししたいといった意見や、日 EU EPA 発効後、貿易から投資への流れができつつあることから、経済交流深化への一層の期待や日伊間の長期的パートナーシップ強化等について言及がなされた。
- 今回の合同会議は SDGs が基調テーマとして設定され、パネル討議においても、「Green Energy, Sustainable Mobility and Smart Cities」、「Research & Innovation for Sustainable Development」、「Sustainable Management in the Supply Chain」の 3 分野に関し、議論が行われた。企業のみならず大学や政府機関を交えての活発な意見交換が行われ、両国メンバー間の共通理解を深めることが出来た。
- IJBG は今後とも、日伊二国間関係の一層の発展、両国経済界や各種関係機関による協力関係のさらなる拡大を目標とすることの重要性を共同声明にて確認した。

(33) 第 33 回会合 2023 年 11 月 7 日 東京(イタリア文化会館)

- 日本側・宮永 俊一会長(三菱重工業株式会社・会長)とイタリア側・ロベルト・チンゴラーニ会長(レオナルド CEO)が、2023 年、それぞれ共同議長に就任し、日本側からは、甘利 明・日伊友好議員連盟会長、西村 康稔・経済産業大臣、鈴木 哲・駐イタリア日本国大使、片岡 進・日本貿易振興機構(ジェトロ)副理事長、イタリア側からは、アントニオ・タヤーニ・副首相兼外務・国際協力大臣(ビデオメッセージ)、ジャンルイジ・ベネデッティ・駐日イタリア大使、マッテオ・ゾッパス・イタリア貿易促進機構(ITA)会長、ウンベルト・ヴァッターニ・伊日財団会長などにご列席頂き、両国の官民合わせて約 130 名が参加した。
- プレナリーセッションでは、両国の経済概況・見通しについて経済専門家から、また 2025 年開催を予定する大阪・関西万博について両国関係者から講演を頂いた。
- プレナリーセッションに先立ち、ジェトロ・ITA・経済産業省共催によるアウトリーチセッションとして、ネットワーキングイベントを開催。「サステイナブル・エナジー」、「インフラストラクチャー(含むグリーンテック)」、「航空宇宙、セキュリティ」、「先端技術、イノベーション、マイクロエレクトロニクス」、「モビリティ、運輸」、「化学、バイオテック、医薬、医療、化粧品」、「アグリフード・アグリテック」の 6 つのテーマでフリーディスカッションを実施した。
- COVID-19 の影響もあり、4 年ぶりに日本での開催となつたが、2023 年 1 月に岸田首相・メローニ首相の会談で両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げしたことや、G7 議長国を 2023 年に日本、2024 年にイタリアが務めること等、両国にとって重要な時期に、より強固な日伊連携を確認する機会となった。

(34) 第 34 回会合 2025 年 5 月 13 日 ローマ(カンチェッレリア宮殿)

- 日本側・宮永 俊一会長(三菱重工業株式会社・取締役)と、イタリア側・ロベルト・チンゴラーニ会長(レオナルド CEO)が共同議長を務める中、日本側からは、加藤 明良・経済産業大臣政務官(ビデオメッセージ)、鈴木 哲・駐イタリア日本国大使、片岡 進・日本貿易振興機構(ジェトロ)

副理事長が参加。イタリア側からは、アントニオ・タヤーニ・副首相兼外務・国際協力大臣、アルフォ・ウルソ・企業メイドインイタリー大臣、ジャンルイジ・ベネデッティ・駐日イタリア大使、マッテオ・ゾッパス・イタリア貿易促進機構(ITA)会長、ウンベルト・ヴァッターニ・伊日財団会長らにご列席いただき、G7 議長国を務めた日本とイタリアの関係強化を背景に、両国の官民合わせて約170名が参加した。

- 昨年に引き続き、ジェトロ・ITA・経済産業省共催によるアウトリーチセッションでは、ネットワーキングイベントを開催。今年は「インテリジェント・ソサイエティ」と「グリーン・ヒューチャー」をテーマにパネルディスカッションを実施し、参加者同士の理解を一層深める機会となった。
- 続くプレナリーセッションでは、両国の経済概況・見通しについて経済団体から講演をいただいた後、ジェトロとITA間でイノベーションおよびスタートアップ分野における日伊協力促進に向けたアクションペーパーが締結された。さらに、IJBGに新規入会された両国会員企業からも講演をいただき、日伊企業間の更なるビジネス交流促進に繋がる契機となった。

4. プログラム



XXXIV Italy-Japan Business Group (IJBG)

General Assembly

Rome, 12-14 May 2025

Program

Mon. May 12 (Members only) - Ambassador's Residence

Welcome Reception

18:30 - 20:30 Welcome Greetings

Ambassador H.E. Satoshi Suzuki

Mr Roberto Cingolani, Chairman IJBG in Italy

Mr Shunichi Miyanaga, Chairman IJBG in Japan

Ambassador H.E. Gianluigi Benedetti

Group Photo

Tue. May 13 (Open Event) - Palazzo della Cancelleria, Piazza della Cancelleria 1, Rome

10:00 - 11:00 Open door, registration and welcome coffee

Outreach Session (Sala Riario and Sala Vasari)

11:00 - 13:30 Open networking with dedicated sectoral corners (Sala Riario)

The networking area will be available for meetings during the entire morning
welcome address by

Mr Mauro Battocchi, Director General for Country Promotion, Ministry of Foreign
Affairs

11:30 - 12:00 Mini-Panel #1 “Intelligent Society” (Sala Vasari)

Mr Matteo Colaninno, Executive Chairman, Piaggio Group

Mr Marco Casanova, Managing Director, Yamazaki Mazak Italia srl

Mr Antonello Mordeglio, President, Danieli Automation Spa-Gruppo Danieli

Mrs Eduina Marino, President & CEO, Nippon Gases Italia

Mod. by Mr Simone Bongiovanni, Partner Attorney, Studio Torta

12:30 - 13:00 Mini-Panel #2 “Green Future” (Sala Vasari)

Mr Fabrizio Grillo, Director Public Affairs & International Relations, Bracco

Mr Paolo Bertuzzi, CEO & Managing Director, Turboden (MHI group)

Mr Tomohiro Ishikawa, Chief Regulatory Engagement Officer, MUFG

Mr Giuseppe Aurisicchio, Managing Director, Mermec JAPAN

Mrs Francesca Pizzi, Country Manager, Hitachi Europe

Mod. by Mr Giuseppe Tarantino, Tax Partner, Studio Pirola Pennuto Zei & A.

13:00 - 13:30 Startup Pitches (Sala Vasari)

Mr Alessandro Fabbri, Novac Srl

Mr Marco Moriani, ARCA Dynamics

Mr Luca Ravagnan, Wise Spa

Mr Andrea Zanda, Rombo.ai

Mod. by Mr Andrea Tabella, Inward Investment Manager, Invitalia

13:30 - 14:45 Networking Lunch

14:45 - 17:15 Plenary Session (Sala Vasari)

MoC: Amedeo Scarpa, Managing Director Foreign Network Department, Italian Trade Agency

14:50 - 14:55 Mr Roberto Cingolani, Chairman, IJBG in Italy

14:55 - 15:00 Mr Shunichi Miyanaga, Chairman, IJBG in Japan

15:00 - 15:10 Hon Antonio Tajani - Deputy Prime Minister and Minister of Foreign Affairs and International Cooperation - ITALY

15:10 – 15:15 Mr Akiyoshi Kato, Parliamentary Vice-Minister of Economy, Trade and Industry, Ministry of Economy, Trade and Industry - JAPAN - (Videomessage)

15:15 - 15:20 Action Paper Exchange Ceremony between ITA-Italian Trade Agency and JETRO and VIP Photo

15:20 - 15:30 Presentation of Italy and Japan data by Mr Andrea Montanino, Chief Economist, CDP

15:30 - 15:50 Mr Matteo Zoppas, President, ITA-Italian Trade Agency
Mr Susumu Kataoka, President, JETRO
Mr Giorgio Marsiaj, Aerospace Delegate, Confindustria
Mr Ichiro Hara, Managing Director, Keidanren - (Videomessage)

15:50 - 16:30 Coffee Break

16:30 - 17:00 Introduction of new IJBG members

Mr Roberto Muzzi, Business Transformation Director, Crif
Mr Hirotaka Inoue, President and CEO, Aichi Sangyo Co., Ltd
Mrs Diana Giorgini, Executive Manager, Atla
Mr Marco Casanova, Managing Director, Yamazaki Mazak Italia srl
Mrs Laura Macciò, Head of M&A, Italgas
Mr Koji Shibata, President and CEO, ANA Holdings Inc

17:00 - 17:10 Hon. Adolfo Urso - Minister of Enterprises and Made in Italy

17:10 - 17:15 Closing Remarks by Mr Roberto Cingolani, Chairman, IJBG in Italy



Tue. May 13 (Members only) - Chiostro del Bramante, Arco della Pace 5, Rome

Farewell Dinner

19:30 Opening Remarks by Mr. Shunichi Miyanaga, Chairman IJBG in Japan

IJBG Farewell Dinner and Award Ceremony of the “Umberto Agnelli Award”
introduced by Amb. Umberto Vattani, President of the Italy-Japan Foundation

Closing Remarks by Mr. Roberto Cingolani, Chairman IJBG in Italy

Wed. May 14 (Members only) - Fucino Space Center, Ortucchio, L'Aquila

On site visit

08:30 - 10:00 Transfer to Fucino Space Centre (pick up @ Piazza dei Tribunali, Rome)

10.30 - 12.30 On-site visit

12:30 - 13.30 Light Lunch

14:00 - 15:30 Return to Rome

Languages:

- Italian-Japanese; Japanese-Italian (*simultaneous translation*) for Outreach and Plenary Sessions
- English for Welcome Reception, Farewell Dinner and On site visit

5. 日本側 出席者一覧 (順不同)

No.	Name	Company	Title
1	鈴木 哲	駐イタリア日本国大使館	在イタリア日本国大使
2	佐藤 澄	駐イタリア日本国大使館	経済部二等書記官
3	荒井 かず葉	株式会社 IHI	事業開発統括本部 イタリア事業開発拠点長
4	井上 博貴	愛知産業株式会社	代表取締役社長
5	木寺 正晃	愛知産業株式会社	新技術開発推進部
6	田畠 彰久	いであ株式会社	代表取締役社長
7	芝田 浩二	ANA ホールディングス株式会社	代表取締役社長
8	勝原 健	ANA ホールディングス株式会社	グループ経営戦略室 秘書部(社長秘書)
9	出原 由佳子	ANA ホールディングス株式会社	グループ経営戦略室 経営企画部 マネージャー
10	水内 賀之	全日本空輸株式会社 ミラノ支店	支店長
11	島田 博夫	株式会社シマブンコーポレーション	取締役会長
12	中野 達也	株式会社シマブンコーポレーション	総務部 秘書広報室長
13	曾根 秀一	株式会社シマブンコーポレーション	アドバイザー
14	中山 文宣	株式会社日本パーカーライジング 広島工場	代表取締役社長
15	片岡 進	独立行政法人日本貿易促進機構	副理事長
16	志牟田 剛	独立行政法人日本貿易促進機構	企画部企画課 海外地域戦略主幹(欧州)
17	三宅 悠有	独立行政法人日本貿易促進機構	ミラノ事務所 所長
18	山本 千菜美	独立行政法人日本貿易促進機構	ミラノ事務所 ディレクター(調査/対日投資担当)
19	Raffaella CORTELLAZZI	独立行政法人日本貿易促進機構	ミラノ事務所 ディレクター(渉外担当)
20	吉田 幸司	野村ファイナンシャル・プロダクツ・ヨーロッパ・イタリア支店	支店長
21	Umberto Giacometti	野村ファイナンシャル・プロダクツ・ヨーロッパ・イタリア支店	Managing Director, Co-Head of Investment Banking Italy
22	Francesco Bertocchini	野村ファイナンシャル・プロダクツ・ヨーロッパ・イタリア支店	Managing Director, Investment Banking Italy
23	Francesca Pizzi	日立ヨーロッパ社 イタリア	イタリアカントリーマネージャー
24	綾部 歩	日立ヨーロッパ社 ブリュッセル事務所	部長代理
25	Felizzola Antonio	Hitachi Rail	
26	両角 智彦	丸紅インターナショナル(欧州) ミラノ支店	支店長
27	Piercarlo Bianchini Riccardi	丸紅インターナショナル(欧州) ミラノ支店	航空宇宙部 マネージャー
28	富田 剛	丸紅株式会社	電力・インフラサービス部門 部長
29	中村 仁	丸紅株式会社	エアロスペース・モビリティ部門 航空宇宙部 部長
30	高尾 篤史	丸紅インターナショナル(欧州) ミラノ支店	航空宇宙部 部長
31	宿利 敬史	欧州みずほ銀行	欧州営業第一部(アムステルダム駐在) 次長
32	久田 貞夫	イタリア三井物産株式会社	代表取締役社長
33	Guido Antonelli	イタリア三井物産株式会社	財務管理課 課長
34	針谷 隆夫	イタリア三菱商事	President & Managing Director
35	Gianluca Cossutta	イタリア三菱商事	Deputy General Manager
36	塚田 章之	三菱UFJ銀行ミラノ支店	支店長
37	石川 知弘	三菱UFJフィナンシャル・グループ	Chief Regulatory Engagement Officer
38	Marco Casanova	ヤマザキマザックイタリア srl	社長
39	炭田 拓也	ヤマザキマザックイタリア srl	General Manager
40	宮永 俊一	三菱重工業株式会社	取締役
41	中溝 和馬	三菱重工業株式会社	取締役業務秘書
42	Paolo Bertuzzi	Turboden (MHI グループ)	CEO & Managing Director
43	Marco Baresi	Turboden (MHI グループ)	Institutional Affairs & Marketing Director
44	田中 信吉	Turboden (MHI グループ)	Special Advisor to CEO
45	近藤 正泰	三菱重工業株式会社(IJBG 事務局長)	グループ戦略推進室 グローバル経営推進部長
46	周 君好	三菱重工業株式会社(IJBG 事務局次長)	グループ戦略推進室 グローバル経営推進部 1 グループ 部長代理
47	臼井 修	三菱重工業株式会社(IJBG 事務局員)	グループ戦略推進室 グローバル経営推進部 1 グループ長
48	武藤 真澄	三菱重工業株式会社(IJBG 事務局員)	グループ戦略推進室 グローバル経営推進部 1 グループ 主任

6. イタリア側 出席者一覧 (順不同)

No.	Name	Company	Title
1	Tajani Antonio	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	Deputy Prime Minister and Minister of Foreign Affairs and International Cooperation
2	Benedetti Gianluigi	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	Ambassador of Italy to Japan
3	Vattani Mario	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	Ambassador and Commissioner General for Italy at Expo 2025 Osaka
4	Battocchi Mauro	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	Director General for Country Promotion
5	Bombardiere Nicoletta	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
6	De Luca Angela	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
7	Del Bene Flaminia	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
8	Di Martino Walter	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
9	Insinga Ludovica	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
10	Landolfi Marco	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
11	Pignatelli Alessandro	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
12	Silvi Marco	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
13	Urso Adolfo	Ministry of Enterprises and Made in Italy	Minister of Enterprises and Made in Italy
14	Cospito Mario	Ministry of Enterprises and Made in Italy	Diplomatic Counsellor
15	Formosa Umberto	Ministry of Enterprises and Made in Italy	
16	Miotti Fabio	Ministry of Enterprises and Made in Italy	
17	Savini Giovanni	Ministry of Enterprises and Made in Italy	
18	Donato Giovanni Vittorio Maria	Ministry of Infrastructure and Transport	Diplomatic Counsellor
19	Ferraro Alfredo	Adler Group	Advisor
20	Cianfrone Alessandro	APRI INTERNATIONAL srl	CEO
21	Rizzo Francesco	ARCA Dynamics	Startupper
22	Moriani Marco	ARCA Dynamics	Startupper
23	Di Biagio Aldo	Assocamerestero	President, CCIE Zagabria
24	Giorgini Diana	Atla srl	Executive Manager
25	Ranzo Giulio	AVIO spa	CEO
26	Souny Stéphane	AVIO spa	Head of Supply Chain Program
27	Stefanile Stefano	AVIO spa	Chief of Institutional Relations
28	Mareschi Danieli Anna	Board Member Danieli & C. Officine Meccaniche SpA	Vice President
29	Grillo Fabrizio	Bracco Spa	Director Public Affairs & International Relations
31	Opl Karl	Bram Cor spa	Business Development Director
30	Peri Alessandro	Bram Cor spa	Area Sales Manager
34	Montanino Andrea	Cassa Depositi e Prestiti Spa	Chief Economist
32	Franciosi Laurent	Cassa Depositi e Prestiti Spa	Head of International Markets Development
33	Rodà Massimo	Cassa Depositi e Prestiti Spa	Head of Macro and Geoeconomic Scenarios
35	Cilli Davide	Comtel spa	President
36	Zanazzi Gabriele	Confagricoltura	International Affairs
37	Carboni Alberto	Confindustria	Aerospace Advisor
38	Maresca Giovanni	Confindustria	Senior Specialist. Asia
39	Marsiaj Giorgio	Confindustria	Aerospace Delegate
40	Muzzi Roberto	Crif Spa	Business Transformation Director
41	D'Amico Antonia	d'Amico Società di Navigazione S.p.A.	Group ESG Director
42	Righetti Lorenzo	DANA Japan	General Manager OH Japan
43	Mordeglio Antonello	Danieli Automation Spa	President
46	Lerario Milena	e-GEOS S.p.A..	CEO
44	Daffinà Filippo Cristian	e-GEOS S.p.A..	Deputy Head of Defence & Intelligence and Cosmo SkyMed Commercial and Business Development
45	Di Domenico Luciana	e-GEOS S.p.A..	North America and Far East Key Account Management
47	Rubino Marco	Ermengildo Zegna Group	

No.	Name	Company	Title
49	Romeo Carlo	Fincantieri	Vice President International Institutional Affairs
50	Bradanini Davide	Fincantieri	Vice Capo Unità per la Formazione DGRI
48	Lustrino Bianca	Fincantieri	
51	Tonin Alessia	Fondazione Altagamma	Institutional Relations
57	Vattani Umberto	Fondazione Italia Giappone	President
56	Donati Umberto	Fondazione Italia Giappone	Director
52	Mindru Alexandru	Fondazione Italia Giappone	
53	Palmeri Fabiola	Fondazione Italia Giappone	
54	Marin Marino	Fondazione Italia Giappone	
55	Uzzo Rosa	Fondazione Italia Giappone	
58	Perez Gary	Gridspertise srl	Head of Business Development Rest of World
59	Arancio Rosaria	Grimaldi Alliance	Partner
60	Antozzi Lorenzo	Industrie De Nora S.p.A.	Chief Officer Energy Transition & Hydrogen
61	Terracciano Pasquale	Investindustrial	Ambassador
62	Tabella Andrea	Invitalia	Inward Investment Manager
63	Garbeglio Giorgio	Ita Airways	Head of International, EU and Industry Affairs
64	Piracci Fiorenzo	Italdesign-Giugiaro S.p.A.	Business Developer
65	Macciò Laura	ItalGas	Head of M&A
66	Maggioni Martina	ItalGas	Foreign Public Affairs
67	Cingolani Roberto	Leonardo Spa	Chief Executive Officer & General Manager
68	Mendeni Tiziana	Leonardo Spa	Chief of Staff, Chief Executive Officer and General Manager
69	Cecchini Angelo	Leonardo Spa	Vice President International Business Development
70	Amoroso Stefano	Leonardo Spa	Communication Director
71	Morici Federica	Leonardo Spa	Head of Corporate and Branding Events
72	Negretti Flavia	Leonardo Spa	Head of Media Relations
73	Alzetta Daniele	Leonardo Spa	Japan Resident Manager
74	Di Rado Lisa	Leonardo Spa	Event Manager Corporate Events
75	Rotolo Palmira	Leonardo Spa	Media Relations Manager
76	Cristaudo Cecilia	Marini & Associati	Senior Advisor
77	Possati Francesco	Marposs spa	Vice President
78	Aurisicchio Giuseppe	Mermec spa	Executive General Manager
79	Fini Maria	Mermec spa	Key Account Manager
81	Todorow Simone	Mondo Mostre / Di Sangiorgio	CFO
80	Cambiaghi Martina	Mondo Mostre / Di Sangiorgio	Partnerships Manager
83	Romani Gianfranco	Nippon Gases Italia srl	President & CEO
82	Marino Eduina	Nippon Gases Italia srl	Industrial Relationship
84	Fabbri Alessandro	Novac S.r.l.	Startupper
85	Mantegazza Stefano	NTT Data Italy	Responsabile Partnerships & International Business
86	Quattrocchi Claudia	Nuovo Pignone / Baker Huges	Institutional Affairs
87	Milardi Gian Marco	Philip Morris Italia	Manager Fiscal Affairs & Int' l Trade.
88	Colaninno Matteo	Piaggio & C. S.p.A	Executive Chairman
89	Manzitti Emanuele	Pirelli & C. S.p.A.	Head of International Relations
90	D' Avanzo Fabrizio	Roberto Coin S.p.A.	Commercial Director
91	Pierini Massimiliano	RX Italy srl	Managing Director RX Italy
92	Panzani Carlo	Salumicifio F.Ili Coati spa	Quality Responsible
93	Dosselli Gian Paolo	Savino del Bene spa	Sales Representative
94	Di Caccamo Viola	SIMEST	Institutional Relations Senior Professional
95	Serracchiani Emiliano	Snam spa	Head of International Legislative Affairs
96	Tarantino Giuseppe	Studio Pirola Pennuto Zei	Tax Partner
97	Kunichika Kumiko	Studio Torta	Account Manager
98	Bongiovanni Simone	Studio Torta	Partner Attorney

No.	Name	Company	Title
99	Valla Valerio	Studio Valla European Consulting	CEO
100	Pigiani Alfredo	Thales Alenia Space Italia S.p.A.	Chief of Staff & Direttore Public Affairs
101	Oto Tagliamonte Leandro	Thales Alenia Space Italia S.p.A.	Responsabile Junior Public Affairs
102	Ravagnan Luca	Wise Spa	Startupper
103	Bianchi Thomas	Wise Spa	Startupper
105	Zerbaro Paolo	ZECO DI ZERBARO E COSTA E C. S.R.L.	President
104	Zerbaro Elena	ZECO DI ZERBARO E COSTA E C. S.R.L.	Business Process Analyst
106	Zoppas Matteo	ITA - Italian Trade Agency	President
107	Galanti Lorenzo	ITA - Italian Trade Agency	General Director
108	Bruno Gianpaolo	ITA - Italian Trade Agency	Director (ICE Tokyo)
109	Restante Enrica	ITA - Italian Trade Agency	Officer (Presidency)
110	Palma Andrea	ITA - Italian Trade Agency	Officer (Foreign Network Dpt)
111	Ricaboni Alessandra	ITA - Italian Trade Agency	Officer (FDI)
112	Costantino Cecilia	ITA - Italian Trade Agency	Officer (Marketing)
113	Bergami Davide	ITA - Italian Trade Agency	
114	Ruffo Alfonso	ITA - Italian Trade Agency	
115	Scarpa Amedeo	ITA - Italian Trade Agency	
116	Urbano Andrea	ITA - Italian Trade Agency	
117	Forzini Marco	ITA - Italian Trade Agency / IJBG Secretariat	IJBG Italian Secretariat
118	Cafagna Anna	ITA - Italian Trade Agency / IJBG Secretariat	IJBG Italian Secretariat
119	Melillo Mario	ITA - Italian Trade Agency / IJBG Secretariat	IJBG Italian Secretariat

7. 議事次第

【同時通訳により文章化・内部限り】

Opening Remarks

(司会) 皆さん、こんにちは。本日はようこそお越しくださいました。1989年、ベルリンの壁が崩壊し、世界の歴史が大きく動きました。同じ年、東京では日本とイタリアの経営者たちが顔を合わせ、両国の経済協力と交流を深めるための新たな一步を踏み出しました。これが、日伊ビジネスグループ(IJBG) 設立年となる1989年10月24日のことです。以来、IJBGは日伊両国の対話と連携を促進するため、ビジネスや知的交流、そして相互理解の深化を目的とした会合を重ねてまいりました。本日、ローマの歴史的建造物——ルネサンス様式で美しく改修された会場にて、第34回目となるIJBG会合が開催されます。

それでは初めに、IJBG共同会長であり、イタリア側会長を務めておられるロベルト・チンゴラーニ様よりご挨拶をいただきます。

Keynote Address

ロベルト・チンゴラーニ（日伊ビジネスグループ　イタリア側会長）

皆さん、ようこそお越しくださいました。昨晩すでにお会いした方もいらっしゃいますが、改めてご挨拶申し上げます。今年の会合では、午前中から会員の皆さんによるパネルディスカッションや、AIをはじめとするスタートアップ企業による多彩なプレゼンテーションが行われ、大変刺激的な内容となりました。日本とイタリアの社会の仕組みや価値観など、非常に多くの共通点があることに驚いております。日本では大阪・関西万博が開催されており、両国とも「メイド・イン・ジャパン」、「メイド・イン・イタリー」として世界を代表する産業国であることを改めて実感しています。

日本とイタリアは、産業力の高さと国際的な発信力を通じて、世界でも有数の貿易国として重要な役割を担っています。特に、今回のテーマの一つであるモビリティ分野においては、交通インフラや人口密度など、共通の課題を抱えており、それぞれが持つ技術力や都市設計の知見を活かすことで、世界を牽引する存在になると確信しています。デジタル化、ロボティクス、工業プロセスの改善、イノベーションなど、さまざまな分野で両国は協力の可能性を秘めています。また、両国とも平均寿命が長く、クオリティ・オブ・ライフや経済的な持続性においても高い水準を維持しています。こうした点からも、日伊両国は長寿社会の先進モデルとして、協力の余地が大いにあると感じています。

2050年の脱炭素社会の実現に向け、日本もイタリアもさまざまな取り組みを進めています。環境やサステナビリティに加え、イノベーションやテクノロジー、デジタル化を通じて、より効率的な社会の構築を目指しています。両国は強い産業基盤を持っており、私自身は物理学者として、核エネルギーなどの技術分野にも関心があります。イタリアも今後、エネルギー生産国としての道を歩む可能性があると考えています。このように、未来について語り合い、共に考える機会が持てるこことを大変嬉しく思います。

日本が世界に先駆けて新幹線を開発したことはよく知られており、私自身、1980年代に初めて乗ったときの感動は今でも忘れられません。現在も、日本はこの分野で世界をリード

ドしています。イタリアにも高速鉄道があり、日立レールなどの企業が活躍し、人や物の移動においても大きな進化を遂げています。こうした共通のビジョンを持つ日本とイタリアが、今後さらに協力関係を深め、強化していくことを心から願っています。

世界では60以上の国々で紛争が続いているが、私たちには共に何かを成し遂げる力があると信じています。本日はご参加いただき、誠に有り難うございました。これから素晴らしい成果が生まれ、明日から新たな協力が始まる事を願っております。本当に有り難うございました。

(司会) チンゴラーニ会長、どうも有り難うございました。それでは次にIJBG日本側会長の宮永俊一會長にお話していただきます。

Keynote Address

宮永 俊一（日伊ビジネスグループ　日本側会長）

皆さま、こんにちは。IJBG日本側会長を務めております、三菱重工業の宮永でございます。本日は、アントニオ・タヤーニ・副首相兼外務・国際協力大臣、アドルフォ・ウルソ・企業・メイド・イン・イタリー大臣、ジャンルイジ・ベネデッティ・駐日イタリア共和国特命全権大使、鈴木 哲・駐イタリア日本国特命全権大使、マッテオ・ゾッパス・イタリア貿易促進機構 会長、片岡 進・日本貿易振興機構 副理事長にご列席を賜り、また、加藤 明良・経済産業大臣政務官には、ビデオメッセージを頂戴しております。ロベルト・チンゴラーニ・IJBGイタリア側会長と共に、衷心より厚くお礼申し上げます。また、本日はご多忙の中、イタリア・日本の双方から多数の皆さまにご参加いただき、誠に有り難うございます。2024年度の合同会議は、双方のスケジュールの関係から見送られましたが、今回ローマで開催できることとなり、私どもも大変嬉しく存じます。

昨年から今日までの世界情勢を見ると、主要国のリーダーの交代も多く、第2次トランプ政権の誕生以来は、安全保障や貿易も含めて、政治経済の流れが世界全体で大きく変わってきた感じます。不透明さと不確実性が増しているこのような状況下ですが、イタリアと日本の企業人が、現実を見つめて、様々な課題やそれへの対応について率直に話し合うことができるIJBGのような活動は、ますます重要性を増してきており、両国の戦略的なパートナーシップを強めていく一助になるものと思っております。

また、先ほどチンゴラーニ会長からもお話をありましたように、今朝のアウトリーチセッションでも、グリーンやデジタルの領域でイノベーションに結び付けていくことが話し合われてきました。今までに培われた知恵や技術と、従来にない新しい発想を上手に組み合わせて、長期的視点と効率的な事業化の両方の視点を共存させて進めていくことが大切であり、IJBGの活動もそのような視点に基づいたものになることが望れます。特に、ここ10～20年間、先進国主体に世界で進められてきたカーボン・ニュートラルへの動きは、グリーンエネルギーのコスト高などの問題もあり、低炭素技術を含めて、より多くの解決策を、経済性を考えながら講じていく状況にあります。政治や経済の分断が進む中で、安全保障と経済の安定・成長に関する政策が優先されている現状ではありますが、カーボン・

ニュートラルを追究していく必要性は薄れしておりません。様々な領域でのクリーンエネルギー化において、両国が協力することで、よりよい方向に進んでいくと思います。

すなわち、私たち日本とイタリアは、天然資源には恵まれていないものの、蓄積された技術と知恵がある国です。お互いに助け合い、補完することで、より多くのことに、より高いレベルで競争力を発揮できるようになります。また、ユーラシア大陸の西に位置するイタリアと、東に位置する島国の日本は、遠く離れていることを活かして、お互いに協力すれば、より効率的に世界の市場をカバーすることができると思います。実際に、両国の長い歴史を通じた友好関係と、先に述べましたポテンシャルを考えますと、芸術・エンターテインメント、食、資源・エネルギー、輸送・航空・宇宙に至るまで広い領域で協力の可能性があるように思います。また、イタリアと日本には、歴史のある家族的経営で中規模な企業が多く存在していることも事実であり、これは類まれな共通点の一つだと思っております。今後は、こうした歴史ある企業同士が、イタリアと日本それぞれの強みを掛け合わせながら交流を深めていくことで、両国の関係もさらに強化されていくと考えています。そしてIJBGがその活動を支援していくようになるのではないか、そうできれば有り難いと思っております。

特に、人的交流と航空貨物輸送の拡大の面では、本日お越しいただきました芝田社長のANAホールディングス様に、東京・羽田とイタリア・ミラノの直行便をご就航いただきました。このような中でお互いのリアルな人的活動、貨物での助け合いなどが活性化されていくベースが強化されています。芝田社長、誠に有り難うございます。

是非、この度のローマでのIJBG合同会議を、今後の新たな発展のためのスタートポイントにできるように、今後、一層の努力をしてまいりたいと思います。

最後になりますが、本日の合同会議が、今後の両国間の貿易や協力関係の発展のため、皆さま・各社・各団体にとって有意義な機会になりますことを心から願っております。本日お集まりの皆さまご家族のご健勝、ご発展をお祈り申し上げまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。ご清聴、有り難うございました。

(司会) 宮永会長、有り難うございました。次はタヤーニ副首相兼外務・国際協力大臣にお話をさせていただきます。どうぞステージの方にお越しください。

Greeting

アントニオ・タヤーニ（イタリア共和国副首相兼外務・国際協力大臣）

皆さん、こんにちは。日本からお越しいただいた皆さん、イタリアの皆さん、すべてのご参加者に心より歓迎の意を表します。本日、このような歴史あるローマの中心地に位置する宮殿にて会合を開催できることを、イタリア側政府代表として大変光栄に存じます。私たちは今年の関西万博のオープニングセレモニーに参加した際も、日本の皆さんから温かい歓迎をしていただきました。日本パビリオンの視察では、水やプラスチックに関する革新的なソリューションや、工業分野における先進技術に、深い感銘を受けました。政策や産業の動向から、日本の卓越した技術力と未来への明確なビジョンを実感いたしました。

日本とイタリアは、共に多くの企業を擁する産業大国であり、同じような経済ビジョンを持つ同志国です。その二国間が強い協力関係を築くことは自然な流れであると言えます。イタリアは世界第2位の工業国であり、日本もまた高度な技術力を誇る国です。両国はインド洋市場においても存在感を示し、海上輸送や航海戦略において重要な役割を担っています。すでに、日英伊による戦闘機の共同開発など、技術協力の実例もあり、今後の協力関係の深化に寄与するものと期待されます。

一方、両国は共通の課題も抱えています。たとえば、レアアースなどの資源を持たないという点です。現在、中国が原材料市場において大きな影響力を持っており、我々はその価格動向に左右される状況が続いています。こうした中で、アフリカや南米などの新興市場との連携を強化し、安定的かつ持続可能な調達体制を構築することが求められています。グローバルな競争力を高めるためには、原材料の調達効率を高めるなど、我々には多くの課題が残されています。また、外務省や経済産業省などの政府機関とも連携し、企業のグローバル展開を支援していく必要があります。日本企業の皆さんとノウハウを共有し、共に事業を発展させていくことを願っております。

両国は1000年以上の歴史を持ち、文化的にも深い共通点があります。私自身、大阪を訪れた際に多くの神社や寺院を見学し、日本とイタリアの文化的基盤に共通するものを強く感じました。こうした背景からも、両国は自然な同盟関係にあるべきだと確信しています。今後、両国企業のグローバル化をさらに進めるため、イタリア政府は、日本企業のイタリア進出を支援するとともに、イタリア企業の日本市場参入準備を後押ししていきます。政治・経済の両面でガイドラインを整備し、外交関係の中で互いに成長していくことが重要です。両国の大使館は、ビジネスや文化交流の場として、今後も絆を深める役割を果たしていくでしょう。特に経済面での連携を強化し、自由市場を重視する国として、関税障壁の撤廃や自由貿易の推進を目指してまいります。イタリアと日本の企業間の協力を通じて、平和と繁栄を築いていくことが私たちの使命だと考えています。

本日はご来場いただき、誠に有り難うございました。皆さまのローマでの滞在が実り多いものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

この後、私たちのアクション・プランをご紹介いたします。申し上げたとおり、日本は我が国にとって極めて重要な国であり、経済政策の指針ともなる存在です。関税戦争は誰の利益にもならず、関税障壁の撤廃と自由貿易の推進こそが、産業大国としての経済強化につながると信じております。有り難うございました。

(司会) タヤーニ副首相、素晴らしいメッセージを有り難うございました。そしてアクション・プランは両国関係強化のさらなる一歩につながると思います。

次に、加藤 明良・経済産業大臣政務官からビデオメッセージをいただいております。

Greeting

加藤 明良（経済産業大臣政務官）

こんにちは。経済産業大臣政務官の加藤明良です。この度、タヤーニ・副首相兼外務・国際協力大臣、ウルソ・企業・メイド・イン・イタリア大臣のご参加を得て、第34回日本イタリアビジネスグループ（IJBG）の合同会議の開催を心よりお慶び申し上げます。IJBGのロベルト・チンゴラーニ・会長、宮永 俊一・会長をはじめ、ベネデッティ大使、鈴木大使、ご列席のイタリアと日本を代表するビジネスリーダーの皆さまの、日頃の日伊関係の発展に向けたご尽力に心から感謝を申し上げます。日本政府を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

昨今、ロシアによるウクライナ侵攻、中東情勢の悪化や、米国による関税賦課、米中対立の激化など、国際情勢における不確実性が増しています。そのような中、自由・民主主義・人権・法の支配といった基本的価値を共有する、信頼できる同志国との連携がこれまで以上に重要になっています。昨年、イタリアは日本からG7議長国を引き継ぎ、自由で公正な貿易秩序の展開や経済安全保障の確保に向け、世界へ力強いメッセージを発出しました。世界が秩序なきパワーゲームに陥らないよう、ルールに基づく自由で公正な経済秩序の維持・強化に向け、イタリアをはじめとした同志国との連携を強化していく所存です。

日伊二国間関係では、2023年に戦略的パートナーシップへ格上げされ、昨年には両首脳間で貿易・投資の促進を含めた、今後の協力の指針となる「日伊アクション・プラン」が発表されました。その中でIJBGの活動の深化と拡大を通し、両国企業間の協力を促進することが記載されています。その一環として、前回からJETROを中心に、IJBG合同会議でアウトリーチセッションを設け、新規会員の拡大に取り組んでいるところです。その結果、両国の会員企業は近年増加の傾向にあり、イタリアとの協力に向けた関心が高まっています。また、両国間の貿易額、日本からイタリアへの対外直接投資残高とともに過去10年間で倍増しています。具体的には、鉄道事業での投資や、日英伊3カ国による次世代戦闘機の共同開発、日本企業によるAIを活用したR&Dセンターの設立など、両国の技術力を生かし、幅広い分野での協力が進んでいます。経済産業省としても、引き続き、こうした活動を支援していきます。

現在開催中の大阪・関西万博では、イタリア館は、紀元2世紀に作られた彫刻像「ファルネーゼのアトラス」を初めて日本で展示するなど、大変好評を博しています。来年はミラノ・コルティナ冬期オリンピックと、日本・イタリア外交関係樹立160周年を迎えます。こうした機会を通じ、日伊関係が発展することを心から祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。グラツィエ。

ITA and JETRO Action Plan on Innovation and Start-Up

（司会）こちらのカンチエッレリア宮殿は、教皇庁にとって非常に重要な場所であり、かつては教皇のための文書が清書され、厳重に保管されていました。本日は、この歴史ある建物において、アクション・プランへの署名を行っていただきます。それでは、ITAのゾッパス会長、

JETROの片岡副理事長、ステージへお越しください。

—署名—

続いて、タヤーニ副首相、ベネデッティ大使、鈴木大使、IUBGのチンゴラーニ会長、宮永会長にも壇上にお越しいただき、記念撮影を行います。

—写真撮影—

なお、ITAとJETROの間では、2013年に両国間の貿易・投資促進に向けた協力に関するMOU（基本合意書）を締結しております。今回の署名は、これをさらに具体化するアクション・プランであり、特にスタートアップのエコシステム、インキュベーター、アクセラレーターなどを通じて、日伊両国の連携を一層強化していく内容となっております。

それではここから、日本とイタリアの経済状況について、具体的な数字を交えながら見ていきましょう。イタリア預託貸付公庫のアンドレア・モンタニーノ様、お願ひいたします。

Presentation of Data on Italy and Japan

アンドレア・モンタニーノ（イタリア預託貸付公庫 チーフ・エコノミスト）

皆さん、こんにちは。本日はこのような機会をいただき有り難うございます。それでは、スライドに沿ってお話を進めてまいります。

（以下、スライド併用・#はスライド番号）

#2

ビジネスを行ううえで、相手国について深く理解することは不可欠です。これは基本的な前提だと考えています。しかし、イタリアに関しては、しばしばステレオタイプに基づいた認識が先行し、実際の姿が十分に理解されていないことがあります。例えば、他国に対して批判的な態度を取る国だといった誤ったイメージが語られることさえありますが、これはイタリアの本質を正しく捉えているとは言えません。イタリアは実際には多面的で、豊かな文化と高度な産業を持つ国です。だからこそ、先入観を取り払い、実際のイタリアの姿を知ることが、真の理解と良好な関係構築への第一歩だと考えています。

#3 – 4

イタリアという国を表すキーワードは、次の四つに集約できると思います「イノベーティブ」「グリーン」「インダストリアル」、そして「コネクテッド」です。

一つ目の「イノベーティブ」について、イタリアには、革新的な取り組みを行う企業が数多く存在しており、ヨーロッパの中でも特にイノベーションが活発な国のです。デジタル化の進展も著しく、高速インターネット環境の整備などにおいて大きな成長を遂げています。また、科学・工学分野の研究発表数では世界第7位を誇り、北から南まで全国

的にイノベーションが展開されています。

二つ目は、「グリーン」です。イタリアは資源に乏しい国であるため、限られた資源を有效地に活用する工夫が進んでいます。特にリサイクル技術に優れており、生産活動の中で再利用される資源の割合は約20%と、EU平均の11%を大きく上回っています。また、カーボンフットプリントもEU平均より低く、資源やエネルギーの使い方において高い効率性を誇っています。さらに、投入した資源に対してどれだけ価値のある製品やサービスを生み出しているかという点でも、イタリアはEU平均を上回る成果を挙げています。製造業をはじめとするさまざまな分野で、限られた資源から高い価値を生み出す仕組みが整っており、効率性と持続可能性の両面で優れた生産体制が築かれています。このように、イタリアは環境に配慮しながら高い生産性を実現している、グリーンな産業国なのです。

三つ目は「インダストリアル」です。イタリアは工業国としての側面も強く、ファッショն、食品、家具などの分野に加え、機械製品が輸出の約40%を占めています。航空宇宙関連製品でも、世界市場においてイタリア製が約40%を占めるなど、高度な技術力を有しています。

最後は、「コネクテッド」です。イタリアは地中海の中心に位置し、戦略的なポジションを持つ国です。ロシアからのガスやアフリカからの資源など、エネルギーの流通においても重要な役割を果たしています。この地理的優位性は、価値創造のハブとしての機能を強化しており、イタリアの国際的なつながりを支える重要な要素となっています。

#5

さて、ここまでイタリアに焦点を当ててご紹介いたしました。こうした背景を踏まえたうえで申し上げたいのは、日本とイタリア、この二国間にはまだまだ多くのビジネスチャンスがあるということです。

現在、イタリアと日本の貿易総額は約126億ユーロにのぼります。イタリアにとって日本は、輸出先として第15位に位置しており、非常に重要な国です。特に、ヨーロッパ以外の国々と比べると、日本の存在感は際立っています。一方で、日本からイタリアへの輸出については、今後さらなる成長の余地がある分野だと考えています。そうした意味でも、EUと日本との経済パートナーシップは非常に重要です。先ほどタヤーニ副首相からもお話をありがとうございましたが、関税をかけることは、誰にとってもメリットがあるとは言えません。現在、EUと日本の間では約90%の関税が撤廃されていますが、今後10年、15年の間に、さらに多くの関税を取り除く方向で進めていくことが大切だと思っています。もちろん、地理や言語の違いはありますが、それでも両国は、より密接に協力できる可能性を十分に持っていると考えています。

スライドの右側をご覧いただくと、イタリアにおける日本企業、そして日本におけるイタリア企業の状況について、いくつかの数字を示しています。現時点では、イタリア企業の海外進出先として日本はまだ30位と、数字としては低い状況です。一方で、日本企業のイタリアでの存在感はより高く、これは歴史的な背景や発展の違いによるものです。これからさらに、五つの分野において両国の関係性を強化していくことができるのではないかと考えています。

#6

それでは、今後の協力分野について、五つご紹介いたします。一つ目は、「エネルギー転換と持続可能なモビリティ」です。日本はこの分野において非常に優れた技術を持っており、イタリアではそれをオートモーティブのデザインや部品の生産などに活かしています。そのため、エネルギー関連の分野では、両国が協力できる可能性は非常に大きいと思っております。

次に、「ロボティクスと工業オートメーション」です。日本には大企業から中小企業まで、幅広いロボティクス関連企業があります。イタリアも同様にこの分野に力を入れており、両国がそれぞれの強みを持ち寄ることで、より高い成果を生み出し、新たな市場にも進出できるのではないかと期待しています。

三つ目は、「医療およびバイオメディカルテクノロジー」です。これは非常に重要な分野です。両国とも高齢化が進んでおり、医療のニーズが高まっています。イタリアには先進的な製薬業界や医療機器の開発力があり、日本もこの分野で高い技術を有しています。この分野での協力は、両国にとって大きな価値をもたらすと思います。

四つ目は、「農業と食品関連のテクノロジー」です。イタリアは食品加工において非常に高い技術を持っており、日本も農業分野で、特に精密な作業が求められる領域に強みがあります。こうした両国の技術を組み合わせることで、新たな交流やビジネスの展開が期待できます。

そして最後の五つ目は「ファッション、デザイン、文化」です。これは少し特殊な分野ではありますが、非常に重要だと思っています。日本とイタリアは文化的な起源も背景もまったく異なる国です。しかし、だからこそ、お互いの文化を取り入れ合い、より豊かに、そして新しい価値を生み出すことができるのではないかでしょうか。

これらの分野の多くでは、すでに協力関係が築かれていますが、今後さらに新しいチャンスが生まれてくると確信しています。ご清聴、誠に有り難うございました。

(司会) モンタニーノ様、有り難うございました。今回のお話にもありましたように、イタリアの「エクセレンス（卓越性）」は、大阪・関西万博でも紹介されています。ぜひ多くの方に足を運んでいただき、イタリアの魅力を直接ご覧いただきたいと思います。イタリアパビリオンの展示は、残り5ヶ月となりますが、今後もさまざまな面での発信に力を入れていただきたいと思います。では次に、イタリア貿易促進機構のマッテオ・ゾッパス会長にお話を聞いていただきます。

Greeting

マッテオ・ゾッパス（イタリア貿易促進機構 会長）

皆さん、こんにちは。遠方からイタリアにお越しいただいた皆さん、そして、タヤーニ副首相、チンゴラーニ会長、宮永会長、ベネデッティ大使、鈴木大使、片岡副理事長、また、大阪・関西万博で素晴らしい取り組みを展開されているヴァッターニ万博大使、ご関係の皆さんに心より御礼申し上げます。皆さまのたゆまぬご尽力と熱意により、日伊両国の協

力関係は着実に深化しております。心より感謝申し上げます。私はIJBGの創設にあたり、日本文化から多くのことを学び、イタリアの産業界が受けた恩恵に深く感謝しております。製造工程の改善や「不良ゼロ」といった考え方は、日本の技術と哲学に根ざしたものであり、イタリア企業にも広く浸透し、産業の質の向上に大きく貢献してきました。こうした文化や知見の交流が、日伊両国の産業界における信頼と協力の基盤を築く原動力となっています。

現在、イタリアから日本への輸出は、高品質な技術・製品・サービスが中心となっており、輸出額は80億ユーロに達するなど、着実な成長を続けています。日本的な考え方を取り入れながら、産業パートナーシップの深化が進み、IJBGを通じて革新的な取り組みが次々と生まれています。チンゴラーニ会長のお話にもありましたように、テクノロジー分野での新規プロジェクトや、長期的な協力関係の構築は今後ますます重要になります。イタリア貿易促進機構による成長戦略の中でも、日本は主要な投資対象国として位置づけられています。日本市場はすでに多くの分野で成熟していますが、今後は新たな分野への進出を通じて、イタリア企業の存在感と競争力をさらに高めていくことが重要です。多様な分野での展開を図ることで、より広範な協力が可能になると考えています。

今回のアクション・プランへの署名を通じて、公共機関やインフラ分野における成長機会を確実に捉え、企業間の連携を一層強化していきたいと考えています。特に、新たな市場を目指す企業との関係性を深めることが、今後の成功において重要な鍵となります。また、IJBGを通じた間接的な投資の促進に加え、イタリアの中小企業にも焦点を当て、彼らが新市場へ進出できるよう支援していくことが不可欠です。

2023年に日本とイタリアは、戦略的パートナーシップの関係に格上げされました。タヤーニ副首相やモンタニーノ・エコノミストのお話にもあったように、両国間にはまだ多くの潜在的なビジネスチャンスが存在しています。これらの機会を最大限に活用し、日本との協力関係をさらに発展させていきたいと考えています。外務・国際協力省や企業・メイド・イン・イタリー省など、政府省庁を通じて両国が互いに支え合いながら、より良い未来を築いていけると確信しています。ご清聴有り難うございました。

(司会) ゾッパス会長、有り難うございました。アクション・プランに盛り込まれた「オープン・ハズ・ポリシー」は、大企業のみならず中小企業にも広く門戸を開いていく方針であり、特にベネデッティ大使からも強くご支援いただいている重要な取り組みです。未来に向けた展望についてのご示唆、心より感謝申し上げます。また、ベネデッティ大使、鈴木大使には、今回の共同署名にも力強いご支援を賜り、深く御礼申し上げます。

それでは次に、日本貿易振興機構の片岡副理事長よりご挨拶をいただきます。

Greeting

片岡 進（日本貿易振興機構 副理事長）

皆さん、こんにちは。ご紹介にあずかりましたJETROの片岡です。本日はタヤーニ副首相兼外務・国際協力大臣のご臨席をいただき、IJBG総会がここローマで開催されることを大変嬉しく思います。そして、IJBGのチンゴラーニ会長、宮永会長、ベネデッティ大使、

鈴木大使、そしてヴァッターニ万博大使、てっきり大阪におられると思ったのでここでお会いできることを大変嬉しく思います。そして我々の大事なカウンターパートであるイタリア貿易促進機構のゾッパス会長をはじめ関係者の皆さまの本会合の開催に向けた並々ならぬご尽力に深く感謝申し上げたいと思います。

前回のIJBG総会の開催は2023年11月でしたが、この1年半で世界を取り巻く状況はまさに激変しました。その影響の大きさ、あるいはその不透明感・不確実性により世界の各国は激震に見舞われているわけですが、私は、この環境変化は日本とイタリアの関係を真なる意味で戦略的パートナーシップにふさわしいものとする大きなチャンスではないかと考えています。

もっと言えば、自由で開かれた公正な経済貿易秩序の維持、脱炭素化、エネルギー安全保障、食糧安全保障など、まさに基本的な価値を共有する同志国として、我々両国は連携を強化する責務があるのではないかとも考えています。私は、今のポストに就任以来、イタリアのプレゼンスを漠然とではありますが強く感じてきました。これは、恐らくベネデッティ大使が日伊企業間の連携促進のために、日夜精力的に、それこそ激しく働いている姿を東京で目にする機会が非常に多いことも理由の一つであると思います。また、欧州内部でも大きな地殻変動が起きている中で、イタリア自身がメキメキと頭角を現し、プレゼンスを高め、リーダーシップを発揮していることは間違ひありません。昨年のG7議長国としてイタリアはAIのガバナンスや気候変動対策でもリーダーシップを発揮しましたが、イタリア自身が今後の産業競争力を左右する循環経済や再生可能エネルギー、資源効率などの面でEUの先頭集団を走っていること、次世代の技術である水素やAIの分野でも取り組みが進んでいること、GDPに占める製造業の割合も近年上昇傾向にあり、製造業の大國としての地位をさらに強めていることは、イタリアのリーダーシップについては単なる印象論ではなく、まさに内実が伴うものであると思っています。

世界の分断の進行が懸念される今だからこそ、共にそれぞれアジアと欧州の地域の中でリーダーシップを果たしうる日本とイタリアが連携を強化し、基本的価値の擁護の旗を掲げ、欧州とアジアを牽引していくことが重要ではないか、それが日本とイタリアの真なる意味での戦略的パートナーシップにつながるのではないかと考えています。そうして強化された両国の連携を、アフリカをはじめ他地域にも広げていくことができるのではないかと思っています。

私は、連携強化を考えるに当たっては、やはり日伊アクション・プランに示された分野である、自動車、交通・モビリティ、循環経済・グリーン移行、航空宇宙、アグリテック、医療・製薬、半導体、スタートアップ、そして繊維と食の各分野が軸になると思っています。そのための推進力となるのがIJBGであり、前回会合から取り組みを始めているアウトリーチ活動であると考えております。ベネデッティ大使もアクション・プランとの関係性は常に意識していました。今回のアウトリーチ活動では「Intelligent Society」、「Green Future」の二つのテーマが取り上げられたほか、スタートアップのピッチも行われました。先ほどもご紹介がありましたが、私は午前中のセッションを聞いていて、やはりものづくりの国としての共通点がある日本とイタリアには、連携の幅が非常に広いと感じました。ものづくりとAIの融合や、ものづくりをしているからこそDX、GXをどう進めるのか

といったことについて共通の課題に取り組めるという意味で、我々の連携の可能性は非常に深いのではないかと感じました。またスタートアップに関しては4社のピッチが行われ、先ほど我々はITAとのMOUにおけるアクション・ペーパーを結びましたが、これからはスタートアップの取り組みの促進、日伊相互の交流や企業とのマッチングなどの取り組みも強化していきたいと考えております。そして協業・連携の具体的な成功事例を積み上げていくことがより大事なことだと考えております。大きなモメンタムを作り上げていく上ではそれが大変重要だと思っておりますので、ここにお集まりの皆さんと共に取り組んでいきたいと思います。

在日イタリア大使館のホームページには2012～2022年の10年間の日本企業のイタリア進出事例のリストが公表されています。こうした案件をリサーチし公表されていることには心から敬意を表したいと思います。このリストには、140件近くの案件が出ていますが、その多くはまさに協業の事例であり、先ほど挙げた重点分野が見事に網羅されております。抜けてているとしたら恐らく宇宙分野での協力ではないかと見ておりましたが、実はこのリストがカバーしていない2023年以降、日本企業とイタリア企業や政府機関との連携事例が宇宙分野でも見られています。今回のIJBGでは、明日、宇宙関連施設の視察が予定されていますが、まさにこの分野での日伊連携を強化したいという思いがこの日程にも表れているのではないかと考えてきました。こうしたリストの公表に加え、重点的にこれらの事例をアナウンスしていくことにより、日伊連携のモメンタムを形成し高めていくことが重要であると考えております。

以上に加えて、マンガ、アニメなどコンテンツの分野での連携も考えられるかもしれません。また、本年7月にはローマでウクライナ復興会議が開催されます。ウクライナ支援で日本とイタリアの連携を目にする形にすることにも取り組んでいきたいと思います。

最後に、私は、今からちょうど1ヶ月前の4月13日に、大阪・関西万博にてイタリアパビリオンのオープニングセレモニーにご招待いただき、参加してまいりました。今回、イタリアパビリオンのテーマは「芸術は生命を再生する」であります「芸術」という言葉には、ものづくり、ファッショ、デザイン、工学、研究、イノベーションに至るまで、様々な概念を含んでいると聞いております。さしつけ、イタリアパビリオンにちなんで申し上げれば、日伊連携のコンセプトは、「芸術により世界を再生する、未来社会を創生する」ということになるでしょうか。

今回のIJBG合同会議を契機としてますます多くの協業・連携事例が出てくることを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

(司会) 片岡副理事長、どうも有り難うございました。それでは、IJBGの設立から参画されているコンフィンドウストリアから、航空宇宙の代表でありますジョルジオ・マルシアージ様にお話していただきます。

Greeting

ジョルジオ・マルシアージ（コンフィンドウストリア 航空宇宙代表）

皆さん、こんにちは。本日はご来場いただき誠に有り難うございます。タヤーニ副首相、チンゴラーニ会長、宮永会長をはじめ、関係者の皆さんに心より感謝申し上げます。本日、この場でご挨拶できることを大変光栄に思います。私はコンフィンドウストリアの航空宇宙部門を代表しておりますジョルジオ・マルシアージと申します。以前は機械工業部門を担当しておりましたが、現在は航空宇宙分野も含めて活動しております。

私は先月、タヤーニ副首相とともに大阪・関西万博のイタリアパビリオン オープニングセレモニーに参加できたことが非常に印象深かったです。素晴らしい万博の幕開けを体感し、その後、東京では経団連との会談も実現し、非常に有意義な交流ができました。東京での対話は非常に前向きなものでした。イタリアと日本は、品質へのこだわり、卓越性の追求、細部への配慮といった共通の価値観を共有しており、これが両国の経済発展を支える原動力となっています。限られた時間ではすべての可能性を語り尽くせませんが、いくつか重要な点を共有したいと思います。

現在、世界は不安定な状況にあり、国際貿易にも影響を及ぼしています。各国の政治情勢も不安感を助長していますが、こうした中でも新たな形のパートナーシップや協力の可能性を模索することが重要です。イタリアと日本の関係は、特にイノベーションや輸出に焦点を当てた経済連携を中心に発展してきました。日本は、長期的な視点に立った協力のあり方において、私たちにとって優れたモデルであり、こうした連携は両国の公共分野の成長にも大きく寄与すると確信しています。経団連とコンフィンドウストリアは長年にわたり強固な関係を築き、数多くの共同プロジェクトを実施してきました。G7において、2023年に日本が、2024年にイタリアが議長国を務めたことで、両国間の協力はさらに深まりました。IUBGの会合も、産業界における新たなイニシアチブを推進するうえで、極めて重要な役割を果たしています。

航空宇宙分野では、第6世代戦闘機の開発をはじめとする技術革新が進んでおり、東京では経団連の皆様とこのテーマについて意見交換を行いました。教育分野においても、大学にとどまらず、中学・高校レベルから若者同士の交流を促進することが重要です。イタリアと日本は文化的にも多くの共通点を持っており、こうした交流が相互理解を深める基盤となります。また、住友とのジョイントベンチャーや、サルディニアでの新プロジェクトなど、先端技術を活用した取り組みも着実に進展しています。今後開催されるB7サミットでは、イタリア経済界の存在感を、より包括的かつ効率的なアプローチで示していくと考えています。世界的に新たな経済シナリオが展開される中、エネルギー分野などにおける日本との協力も非常に順調に進んでいます。

私たちにとって重要なのは、対話を通じて協力関係を築き、両国の競争力を高めていくことです。本日の会合が、その第一歩となることを心より願っております。ご清聴有り難うございました。

(司会) 有り難うございます。コンフィンドウストリアから経団連との連携に関するお話をありましたので、次は経団連・原常務理事からのビデオメッセージをお届けいたします。ビデオメッセージの後はコーヒーブレイクになります。コーヒーブレイク後には、IJBGの新しいメンバーのご紹介を予定しております。また、会場の2列目には、IJBG創設初期からご尽力いただいているウンベルト・ヴァッターニ様のお姿も見受けられます。ヴァッターニ様は1989年からIJBGの立ち上げに深く関わってこられました。

それでは、経団連・原常務理事からのビデオメッセージをご覧ください。

Greeting

原 一郎（日本経済団体連合会 常務理事）

経団連の原です。昨年に引き続きこの会議にお招きいただきまして有り難うございます。本来であれば、ローマに伺って皆さまにお会いしたいところですが、実は明日からカナダのオタワでB7サミットというG7のビジネス版が行われます。そちらに出席を予定しておりまして、本日は伺えないとお詫び申し上げます。

1カ月前には、コンフィンドウストリアのご一行が東京にお見えになり、チミーノ副会長、それから先ほどご挨拶をされたマルシアージ様とお会いしました。本日、再度、こうして同じ会議に出られることを大変光栄に思います。コンフィンドウストリアとの関係がこのような形で維持・強化されていることを嬉しく思います。カナダのオタワのB7サミットにおきましては、チミーノ副会長がコンフィンドウストリアの皆さまを率いてご出席されると伺っていますので、そちらでもまたお会いして、今の国際情勢についていろいろと意見交換させていただくことを楽しみにしております。

昨今の国際環境は非常に複雑で不安定な状況にあります。そうした中だからこそ、民間同士の対話が非常に重要なと思っております。経団連とコンフィンドウストリアとの対話がこうした形で維持・強化されていることは大変重要だと思いますし、こうした中で開かれる日伊ビジネスグループの今回の会議も、非常に重要なと思っております。本日は日本語とイタリア語の同時通訳だと伺っておりますが、ビジネスとビジネスの対話には通訳は要らない、共通の言語で話せると思っておりますので、腹蔵なくいろいろなことが話し合えるという意味で、こういう時代だからこそ、BtoBの対話の重要性を毎日のように痛感している次第でございます。

1カ月前にコンフィンドウストリアの方々と議論をした際、話題の一つはトランプ関税でした。先日、アメリカとイギリスが第1段階の合意をしたというニュースが入ってまいりましたが、日本政府も既に2回、トランプ政権と交渉されております。今月下旬には3回目の協議が行われると承知しております。また6月中旬のG7サミットにおきましては、石破総理もカナダに行かれますので、場合によってはそこでトランプ大統領とのトップリーダー同士の協議・交渉が行われる可能性もあると思っております。

トランプ関税につきましては、困ったなという問題ばかりなのですが、一つメリットがあると思っており、それは、アメリカ以外の国々の同志の結束が高まる効果があることです。これはunifying powerとか、あるいはFinancial Timesでは「creating a

convergence of diversifying interests」というような表現を使っておりましたが、アメリカに対してギャングアップするということではなく、各国が協力関係、結束を深めていく効果があると思っております。EUは昨年末にメルコスールとFTA交渉で大筋合意をしました。その署名に当たって各国の承認を取る際、いろいろな反対意見もあったようですが、ニュースによりますと、トランプ関税が控えている中で、EUの中でも結束が図られたと聞いております。経団連も日本政府に対してメルコスールとの関係強化、FTAの締結を働きかけておりますが、いまだに交渉開始に至っておりません。EUに遅れを取らないよう、グローバルサウスを中心にいろいろな国々との関係強化を図っていく必要があると思っております。各国が協力を深めていることがトランプ関税の一つのメリットだと感じております。

あと2つ、トランプ関税について申し上げたいと思います。それは教訓であります。第1の教訓は、1つの国に過度に依存することはやはりリスクを伴うということです。今後は、先ほど申し上げたようなグローバルサウスの国々との関係を強化することによって、新たな市場を開拓していく必要があると思っています。市場の開拓だけではなく、それが今後の自由で開かれた国際経済秩序の再構築の足掛かりになっていくと考えております。

もう1つの教訓は、ものづくりの重要性です。トランプ関税の一つの導入理由は、アメリカの製造業の復権を図りたいという点にあると聞いております。製造業は、一度失われると、労働力、先端的な製造能力、あるいはそれに伴う部品関係といった裾野の部分が失われますので、一朝一夕に復活ということにはなりません。アメリカに投資をしてほしいということで、日本企業は随分と投資をしてきましたが、経団連の会員企業に聞きましても、さらなる投資はなかなか難しい面があると聞いております。やはりこのものづくりの重要性を改めて感じる次第です。

日本もイタリアも、ものづくり大国ですので、是非この点を肝に銘じて、今後の経済政策、それから経団連あるいはコンフィンドゥストリアの会員企業とのコミュニケーション、また様々な活動にもこの教訓を活かしていく必要があると思います。

最後になりますが、今回の日伊ビジネスグループの合同会議が成功裏に終了されますことをお祈り申し上げまして、私のご挨拶といたします。有り難うございました。

(司会) 有り難うございました。それでは、15分休憩となります。エスプレッソコーヒーを飲んでいただいて、15分後にお戻りください。

— 休憩 —

(司会) 皆さん、休憩からお戻りいただき有り難うございます。コーヒーブレイクは5分延長し、タヤーニ副首相へのご挨拶などのお時間を確保させていただきました。午後のプレナリーセッションについて、非常に前向きなご意見を多数いただいており、引き続き重要な議論が続けます。まずお伝えしたいのは、IJBGは決して閉ざされた場ではなく、「オープン・ハンズ」という言葉が示すように、企業の規模にかかわらず、あらゆる企業に対して広く門戸を開いています。現在、IJBGには両国合わせて40社以上が参画し、そのうち新

たに加わった8社は、イタリア企業3社、日本企業5社です。このあと、企業・メイド・イン・イタリー省のウルソ大臣がご到着される前に、新メンバーの皆さまから会社のご紹介をいただきたいと思います。

それではまず、イタリア企業のご紹介から始めます。金融サービスなどを手がけるCRIF社より、ビジネストラנסフォーメーション・ダイレクターのロベルト・ムツィ様にご登壇いただきます。新たなメンバーとして、IJBGへようこそお越しくださいました。

Company Introductions by New Members

ロベルト・ムツィ

(CRIF ビジネストラヌスフォーメーション・ダイレクター)

皆さん、こんにちは。本日この場に参加でき、大変光栄であり、深く感動しております。イタリア側の新メンバーとして、そしてこのセッションのトップバッターとして登壇することに、少し緊張もしております。まず初めに、この素晴らしい会合の開催にご尽力くださった皆さんに心より感謝申し上げます。イタリア貿易促進機構の皆さんにも、日々素晴らしい活動を続けておられることに敬意を表します。本日は、CRIF Japanのフェデリコ・カントリーマネージャーの代理として出席しております。彼は現在シンガポールに滞在中のため、残念ながら本日の会合には参加できませんが、代わって私が皆さんにご挨拶させていただきます。

#2-3

CRIFは、1988年にイタリアで複数の企業グループによって設立された企業です。設立以来、金融機関、企業、そして個人が、より意識的かつ正確な意思決定を行えるよう支援することを目的に活動してきました。特に、社会経済的な観点から「自らの判断に責任を持つこと」を重視しています。

現在、CRIFは設立から37年を迎え、世界37カ国に拠点を展開しています。偶然にも「37」という数字が重なっています。これまでに10万社以上の企業にサービスを提供し、100万人を超える個人のお客様にもご利用いただいています。年間売上は8億5,000万ユーロに達しています。

#4-5

CRIFはアジア地域においても強い存在感を示しており、フィリピン、マレーシア、インドネシア、香港など、数多くの国に拠点を構えています。そして誇りをもって申し上げますが、日本にも支社を設置しております。日本市場では、組織的な展開だけでなく、事業の存在感という点でも着実に成長を遂げています。現在は1つのオフィスを開設し、日本国内でのサービス提供に最適な体制を整えつつあります。

#6 – 7

私たちCRIFが取り組んでいる主な活動のひとつに、「CRI Factory」と呼ばれるデータ・ファクトリーを基盤としたトレーニングプログラムがあります。これは、商業チャンネルや企業の会計情報などを対象に、ソーシャルメディアなどを活用しながら、情報発信と教育を行う取り組みです。多くの企業が様々なプロモーション活動を展開していますが、私たちはそれらの情報を単なる宣伝文句としてではなく、支払い条件や法令遵守状況など、企業の実態を示すデータとして収集・分析しています。これにより、より正確で信頼性の高い企業情報を提供することが可能になります。

IJBGにおけるCRIFの役割としては、日本とイタリア双方の企業に対して、取引先の信用調査や事業報告、支払い遅延などに関する情報を提供することで、健全なビジネス関係の構築を支援できると考えています。すでに日本国内でも、こうしたサービスをご利用いただいているお客様が多数いらっしゃいます。

#8

本日はご清聴どうも有り難うございました。

(司会) ムツツイ様、有り難うございました。IJBGへの役割についても大変よく理解できました。それではここで、日本側へバトンをお渡ししたいと思います。続いてご登壇いただくのは、愛知産業の代表取締役社長である井上様です。井上社長、IJBGへのご参加を心より歓迎申し上げます。それでは、よろしくお願ひいたします。

井上 博貴（愛知産業 代表取締役社長）

昨年にIJBG会員として参加させていただき、このようなイタリア・日本の合同会議に参加させていただき、心より感謝申し上げます。

#2 – 4

私の会社である愛知産業をご説明させていただきます。愛知産業は、技術商社と、装置、ロボットシステムのシステムインテグレーターをさせていただいております。私どもの会社は、金属加工の業界に世界の最先端技術・装置を紹介する会社です。設立以降、省資源、省エネルギー、省力化に役立つ会社として事業をしております。

愛知産業は、私の祖父が1927年に創業し、1937年に法人として設立された会社です。日本国内に営業所と工場を構え、世界各国の装置を日本市場に販売している会社です。

#5 – 6

私どもの世界のパートナー、仕入れ先は、ヨーロッパの会社そして欧米の会社がほとんどです。何を輸入しているかと申しますと、こちらにあるように金属の3Dプリンターや、溶接機械、産業機械、工作機械、また特殊な溶解炉や精密鋳造炉を海外から輸入して、日本のものづくりのお客さまに装置を販売しております。単に販売するだけでなく、海外メー

カーに代わり、装置の教育・サービス・メンテナンスを提供している会社です。

このように、現在70社ほどの海外メーカーとお付き合いをさせていただいております。大きい会社では数万人の会社から、SMEsといわれるような中小企業までお付き合いをさせていただいている。古くは、もう70年ほどパートナーとしてお付き合いをさせていたでおり、私どもとしては、単に一過性でお付き合いをするのではなく、彼らの技術を習得しながら、日本のものづくりに彼らの技術を展開していくことを仕事として行っております。

#7 – 9

私どもは工場も持っております、海外の機械を自動化やロボットシステムに置き換え、日本のお客さまに合うように、産業の求めるものにカスタマイズし展開させていただいております。どういったところが日本のお客さまかと言いますと、こちらにいるIJBGの会長である三菱重工業様をはじめ、造船、橋梁、鉄骨、航空宇宙、建機、鉄鋼、車両メーカーなど様々な企業であり、やはり金属を扱われる会社が私どものお客様までございます。

このように、様々な装置・機械をロボット化、自動化し、日本のお客さまは、きめ細かい仕様や要望を求められますので、それに対応したデザイン、設計をしながら、それぞれのお客さまに合わせたものづくりのシステムを構築させていただいております。

#10 – 11

こちらは60年ほど前から、日本の原子力発電の装置を作る自動溶接システムであり、そういうあらゆる自動化のシステムも、私どもは多く納めております。また新しい核融合炉の特殊な溶接口ボットシステムも納めております。

#12 – 13

最近、日本のものづくり業界では、人手不足と高齢化がかなり進んでいるため、現場の技術者がいない、熟練工がないということで、このようなロボットを使って自動化を進めております。単にロボットを入れただけで自動化できるものではなく、やはりそれぞれのお客さまのノウハウ、経験をこのロボットシステムに置き換えることはできません。それも、私どもがノウハウ、経験を活かし、展開させていただいております。

#14

9年前から金属の3Dプリンターに着手いたしました。金属の3Dプリンターといつてもいろいろなプロセスがあり、金属のパウダーや金属のワイヤー、そういうもののを使っており、それぞれのプロセスごとに日本のメーカーに納めています。

また、最近では、宇宙のロケットメーカーと協業させていただいており、一番右に写っている彼は、イギリスのクランフィールド大学からスピンアウトして、スタートアップで起業したイギリス人です。その方と、元経産省の方が起業した日本のスタートアップ、この3社で、私どもの経験を提供し、燃料のタンクやロケットの本体を、作らせていただいています。再利用ができる、5回輸送できるようなシステムなども、製造しております。

#15 – 16

環境系のビジネスとして、日本も風力タワーのニーズがたくさんあります。こちらは、風力タワーの柱を製造する設備、DAVIというイタリアの曲げ加工機械メーカーです。従業員180名のイタリア企業で、特殊な機械を用いてデジタル制御の装置を、日本の風力製造設備メーカーに納めています。

#17 – 20

また、イタリアのガルラスコの近くにあります、工業用材料メーカーのものや、イタリアの添加剤メーカーの製品を日本に輸入させていただいております。

私どもは金属加工に関わる日本のものづくり企業に、90年の様々な経験、ノウハウを通して、私どもの製品、扱っている技術を提供させていただいている会社でございます。有り難うございました。

(司会) 有り難うございました。井上社長からは、すでにイタリアにおいても重要な投資が行われており、愛知産業の様々な取り組みについてご紹介いただきました。貴重なお話を有り難うございました。

続いて、防衛および航空宇宙部門に関するご紹介に移りたいと思います。IJBGへようこそお越しくださいました。ATLA社より、エグゼクティブ・マネージャーのダイアナ・ジョルジアーニ様にご登壇いただきます。ジョルジアーニ様、よろしくお願ひいたします。

ダイアナ・ジョルジアーニ (ATLA エグゼクティブ・マネージャー)

皆さん、こんにちは。本日はこのような貴重な場で、日本の皆さん、そして多くの関係者の皆さまの前でプレゼンテーションできることを大変光栄に思います。私からは、当社の事業概要、国際的な認証実績、そして日本との協力の可能性についてご紹介させていただきます。

#2

ご覧いただいているスライドは、当社の事業概要です。当社は、タービンの高温部品や発電用途における技術応用に特化しており、航空宇宙分野のOEM供給を中心に展開しています。特に「Cleaning and Stripping」などの溶接を含む特殊プロセスに強みを持ち、国際的な製造業者との連携を進めています。

技術革新への投資は当社の中核であり、研究開発とイノベーションを通じて市場の成長を支えています。リーン経営や改善モデルにも注力しており、これが企業の競争力の源となっています。

三菱重工業とは2010年以降、強固なパートナーシップを築いており、当社の経営モデルにおいても重要な位置を占めています。現在、15,000m²の敷地と約100名の従業員を擁する中規模企業として、47年の経験を誇っています。

#3

次のスライドでは、当社が取得している国際認証をご紹介しています。航空宇宙分野やエンジン修理に関する認証を含め、幅広い分野で認定を受けております。

当社は、国際航空宇宙品質グループ (IAQG) の一員であり、イタリア国内でも特に専門性の高い企業として認知されています。IA 9100 (国際航空宇宙品質マネジメント規格) の独立レビュー やプロジェクトマネジメント手法の導入に加え、イタリア航空宇宙学会 (AIDAA) およびイタリア品質協会 (AICQ) の理事会にも参画しており、国内外の産業連盟でも積極的に活動しています。

特筆すべきは、2024年にIJBGの一員として正式に参加できたことです。この経験は当社にとって大きな誇りであり、皆さんと共に歩む新たな一步となりました。

#4 – 5

最後に、国際協力の取り組みについてご紹介いたします。当社は、航空宇宙分野を中心に、アメリカやロールスロイスなどとの共同研究を進めており、GCAPプロジェクトにも参画しています。今後のビジョンとしては、主要パートナーである三菱重工業との連携をさらに強化し、革新を推進していくことが重要です。持続可能性を重視し、過去の経験を活かしながら、日本の皆さんと共に未来を築いていきたいと考えております。有り難うございました。

(司会) 有り難うございました。ATLAの発表が終了したところで、企業・メイド・イン・イタリー省のアドルフォ・ウルソ大臣が到着されました。ウルソ大臣が率いる企業・メイド・イン・イタリー省は、1989年のIJBG設立に際してご支援くださった省庁であり、お陰様で本日、第34回目の開催を迎えることができました。今回は新たな会員も加わり、IJBGの会員数は拡大しております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

続いてのプレゼンテーションに移ります。工作機械メーカー、ヤマザキマザック・イタリアより、マネージング・ダイレクターのマルコ・カサノヴァ様に、新規IJBG会員としてのご紹介をお願い申し上げます。

マルコ・カサノヴァ

(ヤマザキマザック・イタリア マネージング・ダイレクター)

皆さま、有り難うございます。私からも大臣へのご挨拶、感謝の意を表したいと思います。またチンゴラーニ会長と宮永会長、鈴木大使、ベネデッティ大使、片岡副理事長、どうも有り難うございます。私はマルコ・カサノヴァと申しまして、ヤマザキマザック・イタリアのマネージング・ダイレクターです。ドイツ、オーストリア、スイス、イタリアを担当しております。

#2–3

ヤマザキマザックは、ご存知のように日本のメーカーであり、1919年に設立された工作

機械の会社です。8,700人の従業員、そして11の工場を持ち、世界的に様々なテクノロジーセンターも保有しています。お客様は工業系の企業が中心であり、イタリア国内では工作機械分野において最大規模のメーカーであると自負しております。

#4

私どもの会社は様々な場所に工場を有しており、日本には5カ所、それから、中国、シンガポール、UK、アメリカ、インドにあります。このように世界各国に拠点を持ち、それぞれのエリアのニーズに対応しております。

#5 – 6

まず工作機械にはどのようなものがあるのでしょうか。例えば、我々の工作機械は、髪の毛の薄さ、 $80\text{ }\mu$ の薄さから、さらにもっと小さい、微粒子のような $30\text{ }\mu$ といったものがあります。さらに私どもは、 $1\text{ }\mu$ までのものを作っております。 $1\text{ }\mu$ というのは目で見ることができません。非常に高精度で精密性の高いものを作ることが求められており、これは工作機械において非常に難しい点でもあります。

#7

この工作機械は何をしているのでしょうか。実は、皆さまのポケットの中にあるものや、日々の生活用品など、私たちの身の回りにある多くのものは、工作機械を通して製造されています。金属やプラスチックなど、様々な素材がこの工作機械によって加工され、製品となります。航空宇宙分野から交通機関に至るまで、幅広い領域を支えているのです。

#8 – 9

工作機械によって何が作られるか、これらは私たちの最も身近にあるものです。こちらの動画もご覧ください。ANA様にも許可をいただき、工作機械が何を作っているのか、と一緒に見ていただきたいと思います。

— 動画上映 —

これは私どもが製造している、マルチタスキングマシンと呼ばれる工作機械です。この機械は、例えば飛行機のランディングギア部品の加工に使用されています。他にも、フライス加工を行う機械があり、例えばこれはフライス加工を経て組み立てられ、飛行機の翼内部に組み込まれています。精度が非常に重要なものです。これらの部品には高い精度が求められており、工作機械の性能が非常に重要となります。このように、工作機械は多様な製品の製造に活用されており、その可能性の広さをご理解いただけたかと思います。

#10

私どもは、非常に小型なものから大型のものまで、300を超えるモデルの工作機械を取

り揃えております。工作機械に関する投資額も非常に高くなっています。ヨーロッパでは、ドイツが最大の工作機械製造国として知られていますが、私どももその中で、非常に広範な製品レンジを誇っております。

#11 – 12

1980年代初頭からは、工場の効率化、自動化にも取り組んでおります。機械の自動化、コンピューターの導入、複合加工機の採用、ネットワークの活用など、我々の工場も時代と共に進化を続けております。最新の工場は「Mazak iSMART Factory」と呼ばれており、AIも活用しながら進化を続ける工場を目指し、今後もさらなる発展が期待されています。

#13

もちろん、当社では環境への取り組みにも力を入れております。CO₂削減、デジタル化、グリーン化を目指し、2030年までにカーボンフットプリント50%の製品の開発を目指しております。また、多くの部品にリサイクル資源を使用しており、持続可能なものづくりを推進しています。

#14

当社は2019年に創業100周年を迎え、その記念事業として、初の工作機械博物館を、大阪と東京の中間地点にある名古屋に設立いたしました。この博物館では、当社の製品のみならず、世界の工作機械や製造業界の歴史を紹介しており、技術の進化とともにづくりの歩みをご覧いただけます。ご清聴、誠に有り難うございました。

(司会) どうも有り難うございます。続いて、イタリアを代表する企業である、イタルガス、ラウラ・マッチオ様にお話いただきます。よろしくお願ひいたします。

ラウラ・マッチオ（イタルガス ヘッド・オブ・M&A）

皆さん、こんにちは。ウルソ大臣をはじめ、本日ご出席の皆さんに心より感謝申し上げます。本日は、このようなイタリアと日本の対話・協力を深める貴重な機会において、イタルガスを紹介できることを大変嬉しく思います。

イタルガスは、イタリア国内でガス配給を担う企業であり、2025年にはヨーロッパ最大のオペレーターとなる見込みです。現在、イタリアとギリシャにおいて、広域にわたる配給ネットワークを展開し、1,300万以上の顧客にサービスを提供しています。

1837年に設立された当社は、イタリアの家庭にガスを導入するという社会的使命を果たしてきました。時代とともに、エネルギー効率の向上や水事業にも取り組み、常に持続可能性と革新を重視してまいりました。当社のネットワークは完全にデジタル化されており、メタンガス、合成メタン、水素といった多様なエネルギーの活用に不可欠な基盤となっています。異なる文化を持つ企業同士でも、この基盤を通じて新たな革新を生み出せると信じています。

この理念のもと、数年前から国際協力を進めており、各社がそれぞれの技術力と文化的背景を活かしながら、持続可能で責任あるエネルギーの未来を築くことを目指しています。2023年に、イタルガスは東京ガスとMOUを締結しました。イタルガスはバイオガスやメタンガスの活用を含む、エネルギー移行に対応した取り組みを進めています。また、2023年には、東京ガスネットワークともMOUを締結しました。日本とイタリアは共に地震リスクが高い国であり、耐震性に優れたネットワーク構築は重要な課題です。当社が独自に開発した技術ソリューションを活用し、持続可能で安定した運用を実現することを目指しています。

これらの取り組みは、相互信頼に基づく協力の好例であり、長期的なビジョンを共有する企業間連携のモデルケースといえるでしょう。今後も、東京ガスネットワーク様、丸紅様とともに、持続可能で強靭、そして革新的なエネルギーシステムの構築に向けて歩んでまいります。有り難うございました。

(司会) ラウラ様、イタルガスのご紹介有り難うございました。ここからは、空の領域へ話題を移したいと思います。本日のプレゼンテーションの締めくくりとして、ANAホールディングス様より航空輸送分野のご紹介をいただきます。IJBGへのご参加に感謝申し上げるとともに、芝田社長にご登壇いただきます。

芝田 浩二 (ANA ホールディングス 代表取締役社長)

皆さま、こんにちは。ANAホールディングスの芝田でございます。新しいIJBGメンバーとして発言の機会をいただき、感謝申し上げます。

#2

私どもANAグループについて、簡単にご説明させていただきます。ANAは、1952年、今から73年前に純粋な民間企業として創立いたしました。当時の会社は、ヘリコプターが2機、従業員数は28名のとても小さな会社でした。右上の赤いマークをご覧ください。このマークは当時のANAのロゴマークです。何かに似ているとお気付きかと思いますが、レオナルド・ダ・ヴィンチが残したヘリコプターの原形と言われるスケッチを基に制作されたものです。私どもANAグループとイタリアのご縁を感じるところです。

#3 – 4

1952年の創立以来、年々成長を遂げてまいりました。現在では日本で最大の航空グループとなっており、従業員数は約41,000名、保有する航空機が現在280機程度です。これらを利用して世界各国125都市へ就航しております。

#5 – 6

ヨーロッパでは現在、9都市へ就航しております。イタリアのミラノには昨年12月に就

航いたしました。就航以来、大変多くのお客さまにご利用いただいており、また、航空貨物の需要が大変旺盛なこともあります、素晴らしいスタートを切ることができました。改めてイタリアの皆さんに感謝を申し上げます。

私どもANAは、日本で唯一、イギリスの評価会社Skytraxより5スターを12年連続受賞しており、私どもの安全と高品質なサービスに誇りを持っております。

現在、ミラノ線はボーイング787を利用し、週3便の運航です。たくさんのお客さまにご利用いただいており、是非、毎日運航へ増便したいと考えております。早期の実現を目指してまいりますので、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

#7

ここで動画をご覧ください。空港での実証実験です。

— 動画上映 —

私どもが現在取り組んでおります、イノベーションの一端の紹介となります。AIロボット「newme」が、空港でお客さまに様々なサービスを提供する実証実験を、日本の空港で展開しております。現在は、人の力による遠隔操作の段階ですが、お客さまへのサービス体験を通して、このロボット自身が自己学習を深め、将来的には人の力に頼らず独立型ロボットとしてお客さまへサービスの提供を目指して、取り組んでおります。

#8

最後になりますが、来年はミラノ・コルティナ・オリンピック・パラリンピックが予定されております。私どもは、今後とも航空事業を通して日本、イタリア両国の経済・政治・文化・スポーツ、様々な領域での交流促進に、微力ではございますが力を尽くしてまいります。皆さまのご支援を、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。有り難うございました。

(司会) ANAホールディングス、芝田社長、有り難うございました。皆さんには是非、ANAの飛行機で大阪・関西万博のイタリアパビリオンにも訪れていただきたいと思います。

それでは次に、ウルソ・企業・メイド・イン・イタリー大臣から、お言葉をいただきます。よろしくお願ひいたします。

Greeting

アドルフォ・ウルソ（企業・メイド・イン・イタリー大臣）

皆さん、こんにちは。まず、1989年の設立以来、IJBGの活動を支えてこられた皆さんに、心より感謝と敬意を表します。両国間のパートナーシップは着実に成長し、企業間の連携も深化しています。新たな会員の皆さんによるプレゼンテーションからは、それぞれの企業が持つ品質へのこだわりと、自社の技術に対する誇りが強く伝わってきました。日本からお越しの皆さんには、この歴史ある宮殿の芸術的・文化的遺産もご堪能いただけたこと

と思います。イタリアと日本は、千年を超える歴史を持つ同志国です。地理的には大陸の両端に位置しながらも、経済や政治の領域で近年さらに交流を深めています。私自身も昨年12月に日本を訪問し、政府代表として貴重な対話の機会を得ました。

両国は、深い価値観を共有し、共通の未来に向けたビジョンを持っています。AI、量子技術、メカトロニクスなどの新技術の進展においても、人間起点の考え方を忘れず、文化に根ざした技術革新を推進する姿勢が重要です。毎年4月15日に開催される「メイド・イン・イタリーの日」は、レオナルド・ダ・ヴィンチの誕生日を由来とし、彼の発明精神や人間の価値を尊重する技術思想を象徴する日として位置づけられています。

1989年はIJBG設立の年であると同時に、ベルリンの壁が崩壊し、保護主義に依存しないグローバル社会への希望が広がった年でもあります。現在、私たちはグローバル市場の不安定さに直面していますが、包摂的でオープンなビジョンを持って対応することが求められています。

イタリアと日本は、品質とものづくりを重視する国として、伝統を尊重しながらもイノベーションを追求しています。製造業においては、「アイデンティティ」「イノベーション」「インターナショナリゼーション」という三つの「I」が重要な柱であり、世界に開かれた姿勢は両国の強みです。先進経済国として、民主主義と繁栄を目指す中で、持続可能性を中心とした協力が不可欠です。2024～2027年のアクション・プランでは、貿易だけでなく、技術、産業、防衛、エネルギー分野における戦略的パートナーシップの強化が重要なテーマです。DXとGXという二重の変革は、半導体、量子技術、ロボティクス、バイオテクノロジーなどの分野で、スタートアップや研究機関との連携を通じ、企業間の架け橋となることが期待されています。グリーン技術や循環経済においても、日本は先進的な取り組みを進めており、イタリアも水素技術や海洋資源の持続可能な活用に力を入れています。さらに、航空宇宙分野や海洋経済、宇宙経済など、新たな協力領域も広がっています。日本が島国、イタリアが地中海の半島という地理的共通点も、将来の課題に取り組む上での強みとなるでしょう。

このような背景のもと、大阪・関西万博のイタリアパビリオンでは多くのイベントが開催されており、イタリアの現状を広く知っていただく機会となっています。企業・メイド・イン・イタリー省では、海外直接投資の促進と円滑化に取り組んでおり、近年では350億ユーロという記録的な投資額を達成しました。法整備を進め、外国投資家がよりスムーズに参入できる環境づくりにも注力しています。

日本の企業の皆さんには、成功事例を通じて、IJBGを中心とした協力関係の可能性をご認識いただきたいと思います。ベルリンの壁崩壊以降の新たな時代における日伊の連携は、共通の運命を歩むパートナーとして、今後ますます重要なものとなるでしょう。ご清聴有り難うございました。

(司会) ウルソ大臣、有り難うございました。それでは、IJBGイタリア側会長であるロベルト・チンゴラーニ会長より、閉会のご挨拶をいただきます。長年にわたる日伊の協力関係を振り返りつつ、本日の意義深い交流を締めくくっていただきたく存じます。それでは、チンゴラーニ会長、よろしくお願ひいたします。

Closing Remarks

ロベルト・チンゴラーニ（日伊ビジネスグループ イタリア側会長）

皆さま、こんばんは。遅い時間となり、皆さまもお疲れのことと思います。今夜はこの後にもイベントが控えており、明日は産業視察も予定されていますので、手短にご挨拶させていただきます。

本日一日を通して私がお話ししてきた内容を、ここで繰り返す必要はないかと思います。ただ一つ申し上げたいのは、IJBGが着実に成長を続けており、今まさに新たなチャンスと可能性が広がっているということです。市場の動向も、多くの企業や投資家の注目を集めています。

イタリアと日本は、これまで数多くの協力を重ねてきました。このグループの誕生も、そうした連携の成果の一つです。私たちは、経済的な課題や国際的な動向にも真摯に向き合いながら、前向きな、価値ある関係を築いてきました。そこから多くのシナジーが生まれています。技術、デザイン、ものづくりへのこだわり、そして中小企業の独自性——イタリアと日本は、こうした価値観を共有する同志国です。機械産業や輸送分野においても、両国は驚くほど似た特徴を持っています。

私自身、科学者として日本に滞在していた経験があります。1980年代末から90年代にかけて、東京大学の駒場キャンパスに通う前は六本木に住んでいました。その頃から、日本とイタリアの間には多くの共通点があると感じていました。

今、時代は移り変わり、GCAPをはじめとする国際プロジェクトが進行しています。AI、ドローン、防衛技術など、2035年にプロトタイプが完成し、今世紀末には実用化される技術もあります。日本企業が関わることで、こうした技術の進化は今後も止まることなく続いていると、私は信じています。

本当の意味での締めくくりは、ここから始まる新たな一歩です。世界が直面する課題の中で、私たちは平和と希望に満ちたメッセージを発信し、より大きな未来を切り拓いていくことができる信じています。この1年も、さまざまな活動を通じて関係を深め、また来年、皆さんと再会できることを楽しみにしております。宮永会長、鈴木大使、ベネデッティ大使、ヴァッターニ万博大使、ゾッパス会長、片岡副理事長、そしてご来場の皆さん、本日は誠に有り難うございました。今晚、または明日お目にかかる方もいらっしゃるかと思いますが、改めて心より御礼申し上げます。本日は誠に有り難うございました。

(司会) 皆さん、本日は誠に有り難うございました。温かな交流と実りある対話に心より感謝申し上げます。来年、日本で再び皆さんとお目にかかる 것을楽しみにしております。

8. プレゼンテーションスライド資料 (掲載許可取得分)

アンドレア・モンタニーノ（イタリア預託貸付公庫チーフ・エコノミスト）

#1



Strengthening Italy-Japan relations beyond the stereotypes

XXXIV General Assembly, Italy-Japan Business Group

Andrea Montanino
CDP Chief Economist and Director for Sectoral Strategies and Impact

May 2025



Interno – Internal

#2

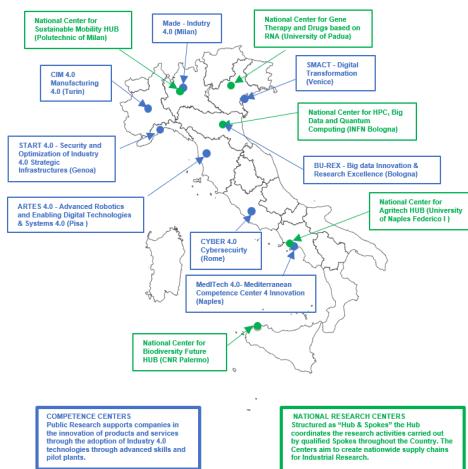
MYTHS TO DISPEL | Italy's international image is somehow misleading



Interno – Internal

1**INNOVATIVE**

High propensity to innovate
World class scientific community
Growing innovation ecosystem

Collaborative technological hubs

3 Source: Invest in Italy

2**GREEN**

At the forefront in reducing the environmental impact of production and consumption

Energy landscape in Italy vs. EU (%; 2022)**Circularity rate**
(Share of recycled material)

IT: 18,7%
EU27: 11,5%

Source: CDP elaboration on Eurostat data

Carbon footprint
(GHG emissions per capita.)

IT: 6,95t
EU27: 7,54t
(-7,8%)

Source: CDP elaboration on European Environment Agency data

Resource productivity
(euro of value added per kilo of resources)

IT: 11,08
EU27: 9,30
(+19,0%)

Source: CDP elaboration on Eurostat data

Energy productivity
(euro of value added per kilo of oil equivalent)

IT: 4,18
EU27: 2,74
(+52,8%)

Source: CDP elaboration on Eurostat data



Interno – Internal

3**INDUSTRIAL**

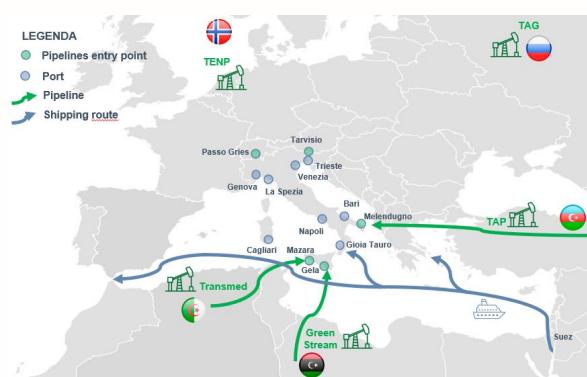
7th largest world manufacturing powerhouse
4300 different products in export basket
Top3 in 8 industries for trade performance

The International Space Station (ISS)

More than 40% of the habitable volume of the International Space Station (ISS) is manufactured in Italy

4**CONNECTED**

Logistical, energy and digital hub for Europe

Italy's privileged geographical position

4 Source: ISS website.

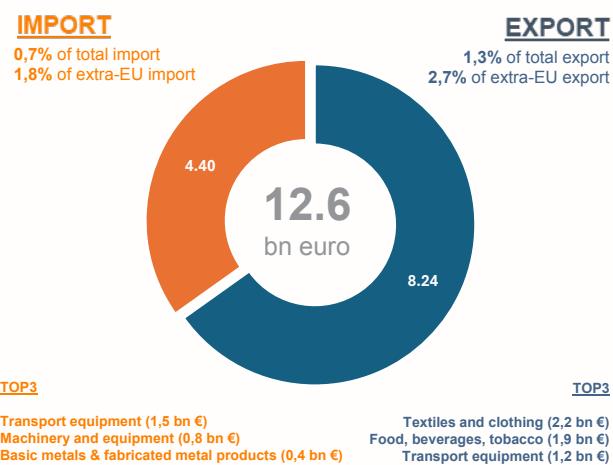
Source: CDP

Interno – Internal



Italy & Japan: large room for business collaboration in trade and innovation

Italian commercial trade vs Japan in 2024



ENTERPRISES	
Italy in Japan	Japan in Italy
169	430
Japan ranks 30° by number of Italian companies abroad	
EMPLOYEES	
8.534	48.459
Japan ranks 39° by number of employees of Italian companies abroad	
TURNOVER Billion euros	
2,9	25,2
Japan ranks 26° by turnover of Italian companies abroad	
Japan ranks 8° by turnover of foreign companies in Italy	

Source: CDP elaboration on Istat-ICE data
Interno – Internal

Sectoral opportunities and national specificities

Energy transition and sustainable mobility



Hydrogen tech, batteries, hybrid/electric cars

Automotive design, components, motorsport



Agri-food and agricultural technologies



Flexible industrial districts with growing automation



DOP/IGP products, agricultural machinery



Robotics and industrial automation

Aging population, strong health tech investment

Advanced pharma, medical devices, biomedical hubs



Fashion, design, and cultural industries



Global leader (Fanuc, Yaskawa, Kawasaki)



Precision farming, Agri-robots, vertical farming

ロベルト・ムツィ (CRIF ビジネストラנסフォーメーション・ダイレクター)

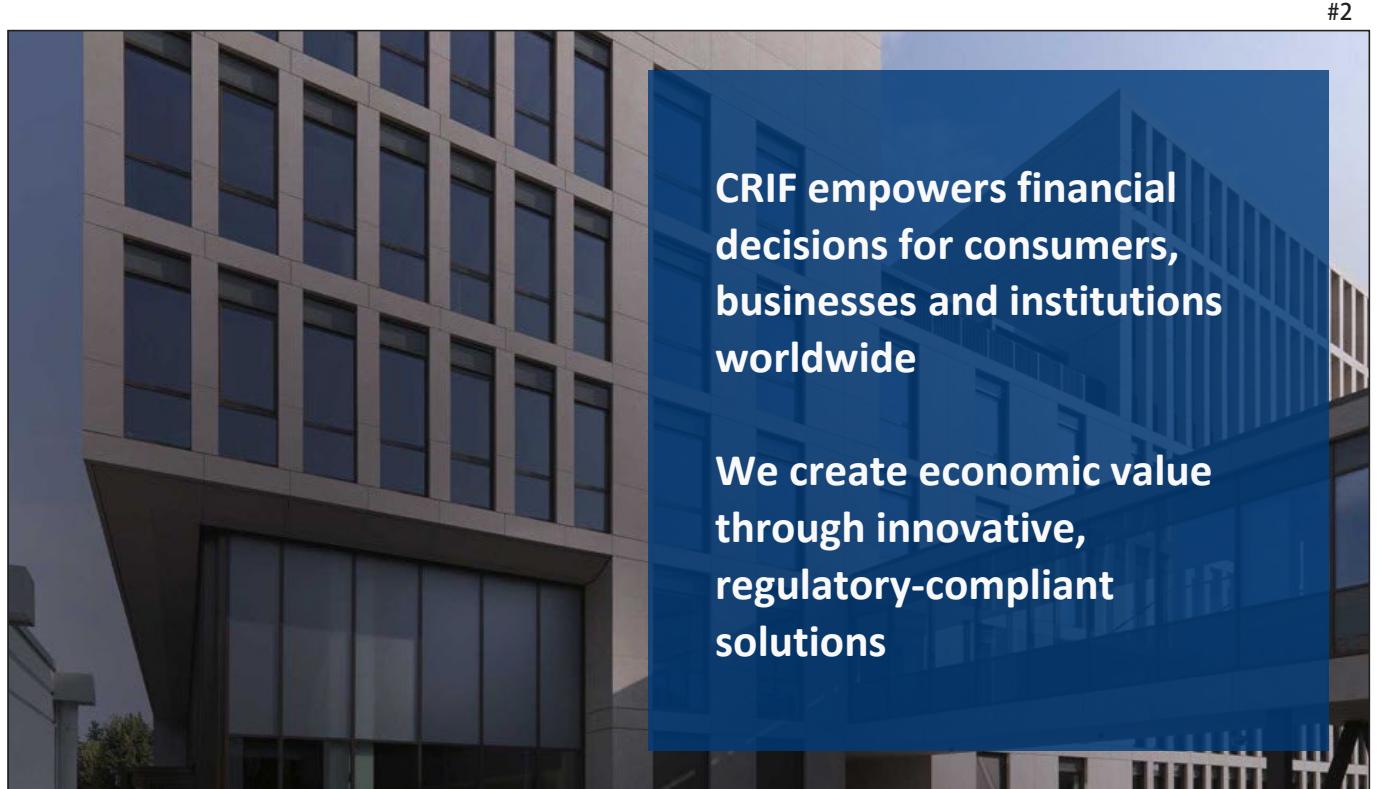
#1



The graphic features a dark blue background with a diagonal light blue swoosh. In the top left corner is the CRIF logo with the tagline "Together to the next level". Below the logo, the text "Your Trusted Partner for Financial Success" is displayed in white.



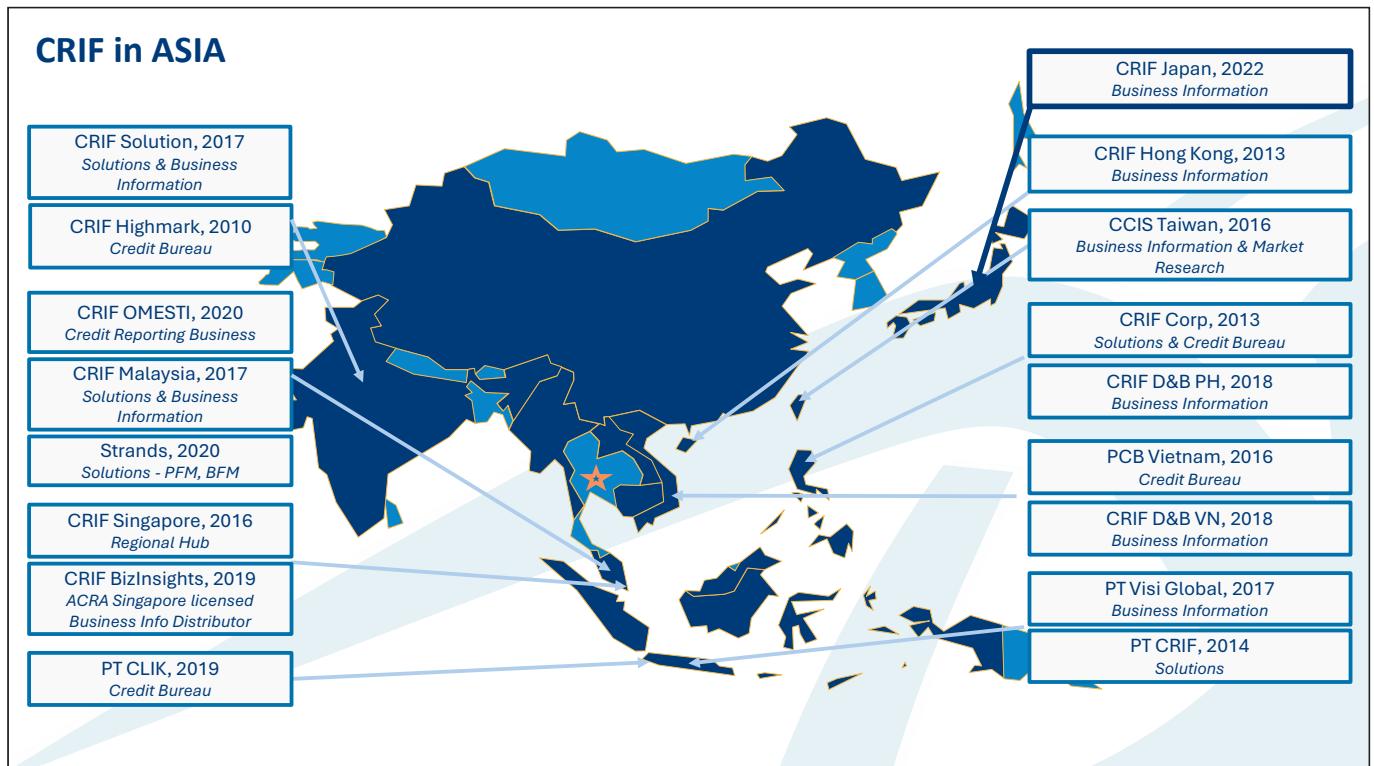
A photograph of two business people in suits shaking hands in front of a modern city skyline with tall skyscrapers under a clear sky.



A photograph of a modern office building with a grid of windows and a glass-enclosed entrance.

CRIF empowers financial decisions for consumers, businesses and institutions worldwide

We create economic value through innovative, regulatory-compliant solutions



#5



#6

CRIF in IJBG

We see ourselves in the IJBG as the enabler of trust and commercial growth for Japanese and Italian companies operating in the international markets, the data hub that can make trade and procurement safer against growing uncertainties and instability



CRIF is already the trusted partner of many Japanese corporations and government agencies for credit risk, commercial risk and compliance of clients and suppliers

CRIF in JAPAN

◆ Sumitomo Corporation



MITSUI & CO.

TOYOTA TSUSHO

Marubeni

東京産業株式会社
TOKYO SANGYO CO., LTD.

MITSUBISHI
HEAVY INDUSTRIES

OVOLO
Japan Pulp & Paper Group

SEGA Sammy
HOLDINGS

SHIBAURA

NAGASE

Daido Kogyo Co., Ltd.

ULVAC



Kawasaki
JFE

NIPPON STEEL
TRADING



お時間をいただきありがとうございました。良い一日をお過ごしください。

井上 博貴（愛知産業株式会社 代表取締役社長）

#1

Aichi Sangyo Co., LTD
AS 愛知産業株式会社
Aichi-Sangyo Co., LTD
AS
Technical Trading Company & Systems Integrator
AS
Aichi Sangyo Co., LTD
T.O. AICHISANGYO CO., LTD



#2

Aichi Sangyo is Technical trading company & system integrator.

"To serve metal industries with advanced technologies of the world"

We will contribute
to serve resource conservation, energy and labor.

1927
1937
1963
1985
2010~2025

Outline of Aichi Sangyo

- Head office : Shinagawa-ku, Tokyo, Japan
- Branches Offices: Nagoya, Kobe, Hiroshima, Fukuoka.
- Established: September 11, 1937
- Business: Welding equipment, Industrial machinery , AM machinery ,Industrial Material, Engineering and production (Design and manufacture of welding related automatic machines) plus, real estate management.

AS いつでも、世界の先端技術
愛知産業株式会社

Aichi-Sangyo office

JAPAN

The map shows the locations of several Aichi Sangyo offices across Japan, with arrows pointing from each office's name to its corresponding building photograph:

- Hiroshima OFFICE
- Fukuoka OFFICE
- Kobe OFFICE
- Nagoya OFFICE
- Tokyo head OFFICE
- Real estate
- Hitachi OFFICE
- Sagamihara Kanagawa factory

AS AICHI SANGYO CO.,LTD

Our partner's products

Additive Manufacturing	Welding	Machining Cutting	Portable Machining	Melting heat treatment	Grinding Polishing

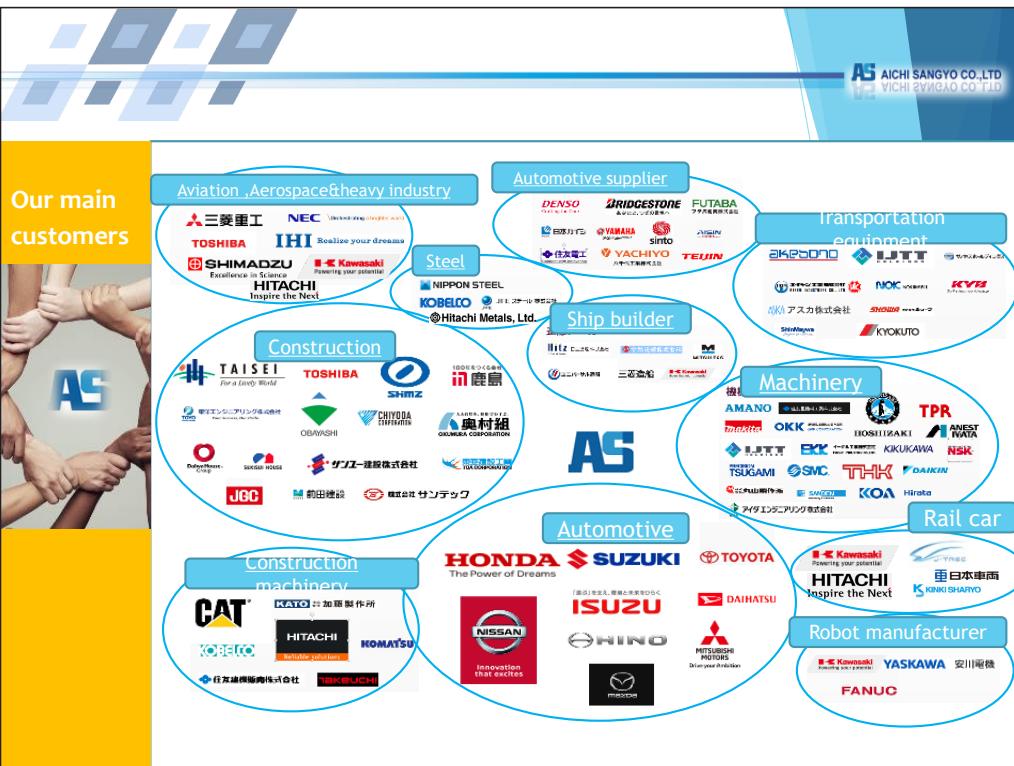
AS AICHI SANGYO CO.,LTD
VICHISANGYO CO.,LTD

World wide Partners

We offer
Automation systems and advancement of products.
We designed and manufacture of special purpose
machines to meet the specific need of customer.



we offer Integrated system. We do delivery and technical service.

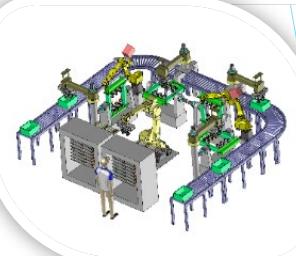
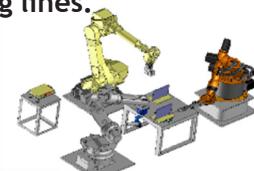


AS ENG.

**AS AICHI SANGYO CO.,LTD
AICHI SANGYO CO.,LTD**

World wide high edge technologies and our design.

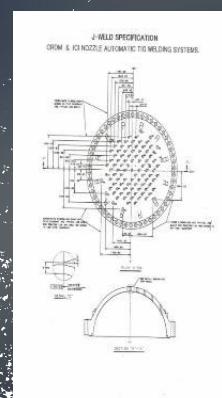
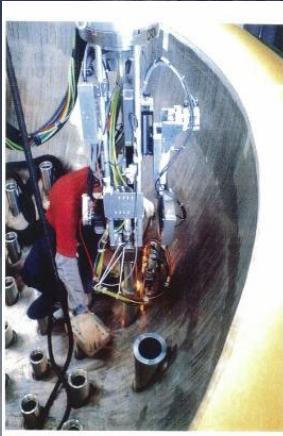
For more efficient productivity of manufacturing lines.



**AS AICHI SANGYO CO.,LTD
AICHI SANGYO CO.,LTD**

Automation systems for Nuclear power plant.

Challenging special needs with flexible idea.



New technology for tomorrow's energy needs.

AS AICHI SANGYO CO.,LTD
T.I. OAO NAM AICHI

All metal market.

PUSHCORP, INC.
DALLAS, TEXAS

deburring
grinding
polishing

AS AICHI SANGYO CO.,LTD
T.I. OAO NAM AICHI

AAMS
Aichi's Additive Manufacturing Solutions

AS AICHI SANGYO CO.,LTD
VICHISANGYO CO.,LTD

World wide Partners of our AM Business

SLM Selective Laser Melting (PBF)

EBM Electron Beam Melting (PBF)

LMD DED Laser Metal Deposition

WAAM Arc Wire Arc Additive Manufacturing

EBAM Eb+solid wire Electron Beam Additive Manufacturing

将來宇宙輸送システム
In the Space Car
OUR PHILOSOPHY
IT IS A TURN TO
THE FUTURE
無限

会員3Dプリンターによる推進薬タンクのスペック

項目	内容
サイズ	Φ750mm × H1230mm(実機の1/3サイズ) ※会員3Dプリンターによる製造では国内最大規模
材質	アルミニウム合金
製造方法	WAAM方式 (WAAM:Wire-Arc Additive Manufacturing ワイヤーアーク3Dプリンタ方式)
設計	ISC(将来宇宙輸送システム株式会社)
製造・加工	愛知産業株式会社

production equipment for supporting structures for wind power generation

The diagram illustrates a 10-step process for wind power equipment production:

1. A large yellow component is being processed.
2. A red component is being processed.
3. A blue component is being processed.
4. A small red component is being processed.
5. A small blue component is being processed.
6. A small red component is being processed.
7. A small blue component is being processed.
8. A small red component is being processed.
9. A small blue component is being processed.
10. A large blue component is being processed.

A photograph of an offshore wind farm is shown in the background.

DAVI (official name :PROMAU)

DAVI (official name :PROMAU) is a company established in 1966 with a history of 55 years, located in CESENA city, Italy, with 180 employees. It has sales of 50 million euros per year and branches in the USA and CHINA. It is a manufacturer of bending rollers.

CESENA city
80km from Bologna
One hour by car

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Company Profile ~ Itaprochim ~

Company Name: Itaprochim S.r.l

Established : Founded in 1990 in Milan, Italy

Headquarters : Via Leonardo da Vinci 2, 27026 Garlasco, Italy

Business Overview:

Itaprochim manufactures high-performance raw materials for a wide range of industrial applications. The primary focusing is on the friction materials industry, particularly for automotive brake pads.



Products

SICACELL

“Porous calcium silicate hydrate”

By formulating into friction materials, Effectively increases the coefficient of friction
the reducing noise and providing high heat resistance

Prochim-HT

“Chromium-based composite material”



Business Relationship with Aichi Sangyo : Since 2010

Company Profile ~ Nachmann ~

Company Name: Nachmann S.r.l

Established : Founded in 1974 in Milan, Italy

Headquarters : Via Enrico Cernuschi,1, Milan

Business Overview: Manufacture and sales of specialty chemicals for plastics, lubricants, and coatings

Products

MB AR/PBT-30

“Chain Extender”

Formulated into recycled PET/PBT resin

Improving material properties
and reducing PET waste

PTFE

“Fluoropolymer”

Formulated into various engineering plastics
to improve slipperiness and flame resistance



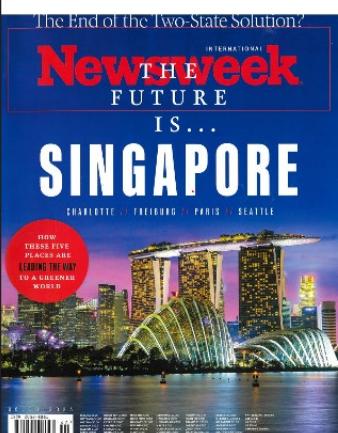
Formulated into resins to added value

Business Relationship with Aichi Sangyo : Since 2019



Our business is based on the metal field customer's needs and requests.

Aichi Sangyo will propose solutions using both over 90 years of experience and its Internal Engineering ability. We have strong network in the market.



Revolutionizing Japanese manufacturing with leading technology and unparalleled service

Combining forward-thinking solutions, strong networking capabilities, and comprehensive support, Aichi Sangyo stands out by offering a holistic approach to advancing industries



"We import cutting-edge technology from around the world, and develop, design, manufacture, and sell our products."

Inoue Hirotaka, President,
Aichi Sangyo Co., Ltd.

A leading industrial solution provider for metal processing industries in Japan, Aichi Sangyo was first established in 1927 and will soon celebrate a century in business.



Sagamihara R&D center

demanding of the whole domestic market has made a series of investments through partnerships in three new fields: additive manufacturing, EV related technologies, and artificial intelligence.

The aim, Mr. Hirotaka states, is "to act as a bridge" PBF system SLM280

and introduce overseas companies with high potential for growth to the Japanese market," a transition which can be challenging owing to language and cultural differences.

"By providing comprehensive services to overseas companies who want to enter the Japanese domestic market," he continues, "we are giving them a higher chance of success in their endeavor."

The company has been actively seeking new partners in metal additive manufacturing.

Looking to the future, Aichi Sangyo will be focusing on the field of robotics, and on developing communication between robots and humans.

Helping Japanese SMEs achieve sustainable growth

is also high on Mr. Hirotaka's list of priorities. "The growth of Japanese SMEs," he concludes, "depends on whether they can generate high additive value in

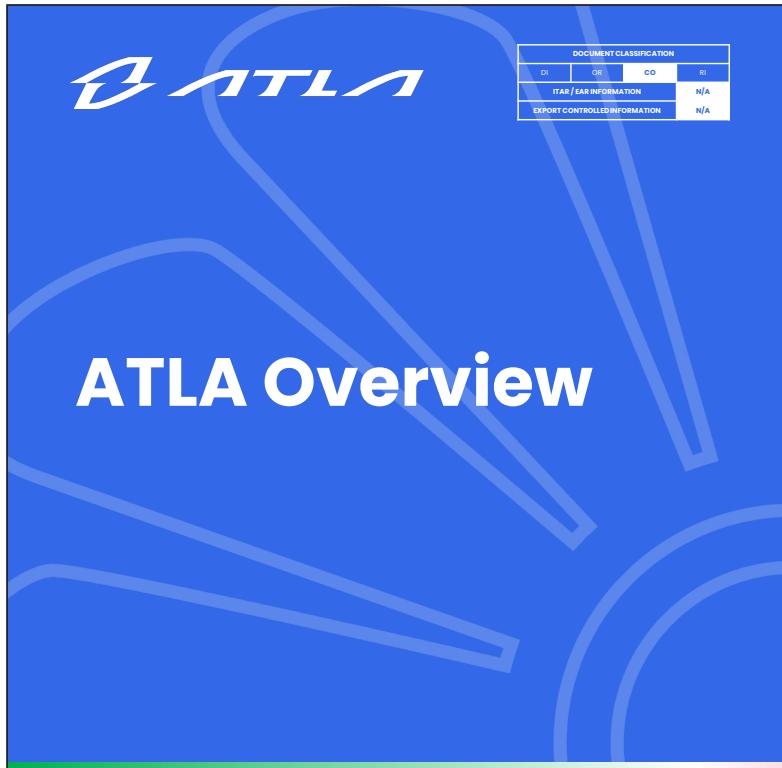


manufacturing; and whether they can uncover high-profit margin products. We want to be available to support them in achieving both these things."

AS 愛知産業株式会社
www.aichi-sangyo.co.jp

ダイアナ・ジョルジアーニ (ATLA エグゼクティブ・マネージャー)

#1



The slide features a blue background with white abstract wavy lines. The ATLA logo is in the top left corner. A document classification table is in the top right. The main title "ATLA Overview" is in the center.

DOCUMENT CLASSIFICATION			
DI	DR	CO	RI
ITAR / EAR INFORMATION	N/A		
EXPORT CONTROLLED INFORMATION	N/A		

ATLA Overview

Powering **Excellent** Technology.

XXXIV ITALY-JAPAN BUSINESS GROUP GENERAL ASSEMBLY

ROME, 12-14 MAY 2025

© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

#2



Leaders in Energy & Aviation

Centre of Excellence for high-tech gas turbines, having **Mitsubishi Heavy Industries Group** as shareholder since 2010: a long lasting and successful **partnership**.

Supporting all major **OEMs** in the **full repair** and **manufacturing** activities of blades and vanes of **aircraft engines and energy turbines**.

Mastering **know-how** intensive **technologies**: *cleaning and stripping, preliminary inspection, TIG and laser welding, laser drilling, EDM, heat treatments, coating, finishing and final inspections*.

Always committed to developing **new technologies**: *advanced coatings, additive manufacturing, etc.*

Working as a **LEAN** company, applying **KAIZEN** methodology, to reach **continuous improvement, product quality** and **Customer satisfaction**.

+47 Years of experience

+15.000 Total space (sq.m.)

+100 Total employees



© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

Globally accountable

STANDARD	SCOPE
AS/EN 9100	Production of aircraft engine parts
AS13100	Aero Engine Design and Production Organizations
AS/EN 9110	Maintenance, repair and overhaul of aircraft engine parts
NADCAP	Welding, Nonconventional Machining, Coatings, Heat Treating, Nondestructive Testing, Metallographic Laboratory for each commodities
ISO 9001	Quality
ISO 50001	Energy
ISO 45001	Health and Safety
ISO 14001	Environmental
ISO/IEC 27001	Information Security
Ex Art. 28 TULPS NOSC	Security
ECAP	Export Control

Affiliate Member of the **International Aerospace Quality Group (IAQG)** promoting quality in the Aerospace and Defense sectors:

- PM, APQP, Agile
- SCMH
- IA9100 Independent review

Member the **Italian Association of Aeronautics and Astronautics (AIDAA)**.

Board Member of **AICQ**, the Italian Association for Aerospace Quality Culture.

Member of the **Piemonte Aerospace District (DAP)** and **Cluster Tecnologico Nazionale Aerospace (CTNA)**.

Member of **Unione Industriali Torino**.

Member of the **IJBG** since 2024.



© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

3

International Partnerships for Innovation

Joint R&D projects for continuous reach of **new solutions**:

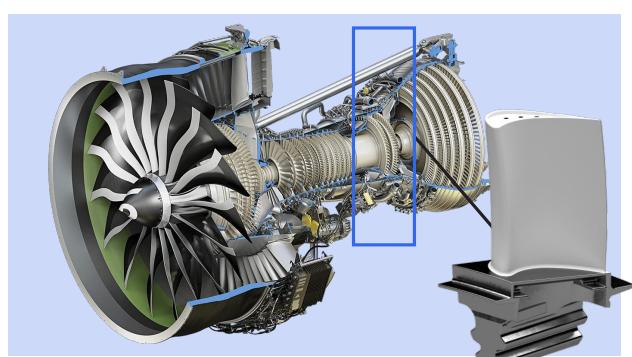
- with **OEMs** such as **PW, GE Aerospace, Rolls Royce**, etc. and independent MROs. **Coating** joint developments in **partnership** with **Oerlikon**.
- with **Politecnico di Torino**: **innovative coatings, additive manufacturing, digital twins**.

European Technology Development Clusters (ETDCs): GE Aerospace network for innovative coatings, additive manufacturing and advanced materials.

NEUMANN Project, to bridge the launch of the 6th generation air combat (Tempest Program).

GCAP (Global Combat Air Programme): teaming Italy, UK and Japan, ATLA is already engaged in R&D engine activities and is starting to build multilateral industrial connections, mainly with **AVIO AERO, LEONARDO, MHI** and **IHI**.

Ongoing meetings in **Japan** and **Italy** for long-term **cooperation** with Japanese **stakeholders**.



MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES **GE Aerospace** **Avio Aero**

CONNECTICUT CENTER FOR ADVANCED TECHNOLOGY **SAFRAN** **oerlikon** Politecnico di Torino



© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

4

Long-Term Vision

Strengthening economic, cultural, and social ties with **Japan**, working on **projects** creating **win-win results**:

- Supporting Member of the **Italy-Japan Business Group**.
- Long-term Technological Partnerships with **Mitsubishi Heavy Industries** and other stakeholders.
- Developing **next-generation propulsion systems** (GCAP Programme) and expanding cooperation in the **Space** sector.
- **Corporate Academy**, for developing the next generation of skilled workforce through cooperation with educational institutions and business leaders.
- **New facilities**, for integration of capabilities, investment in advanced equipment, lean manufacturing practices, and strengthened project management.
- **Cross-functional teams for innovation** (MHI Automation Team), to drive continuous improvement.
- **Corporate Social Responsibility**, promoting initiatives and projects close to the community and dedicated to our employees.
- Featured in the prestigious Italian **TOP 100 ESG Excellence** of the **Sustainability Award**.



© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

5

Proud of our **Past**,
Leading our **Present**,
Building our **Future**.

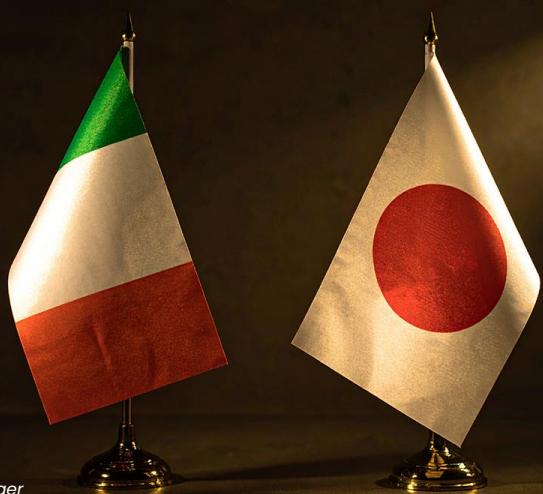
ありがとう
Grazie!
Thank You!



Luca GANDINI
Chief Executive Officer
[E luca.gandini@atla.it](mailto:luca.gandini@atla.it)



Diana GIORGINI
Aerospace & Defense
Business Development Manager
[E diana.giorgini@atla.it](mailto:diana.giorgini@atla.it)
M (+39) 348 491 3206



© ATLA S.R.L.
ATLA Proprietary Information. All rights reserved.

6

マルコ・カサノヴァ（ヤマザキマザック・イタリア マネージング・ダイレクター）

#1

YAMAZAKI MAZAK CORPORATION

Mazak

Your Partner for Innovation

YAMAZAKI MAZAK CORPORATION

www.mazak.com

Sensitivity - Confidential

#2

CORPORATE PROFILE

Corporate profile

Machine tool global leading company

Mazak



Establishment
1919



Employees
8700



Production plants
11
In Japan : 5
Overseas : 6

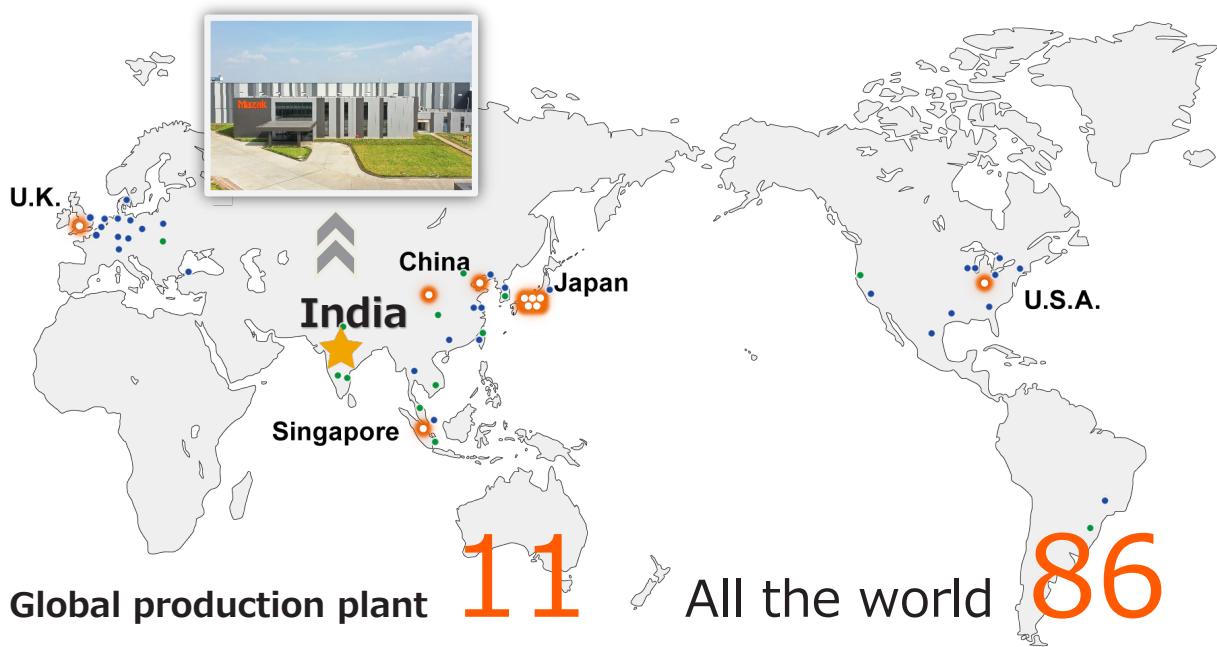


Technology Center
38
In Japan : 6
Overseas : 32

Technical Center
48
In Japan : 26
Overseas : 22

Sensitivity - Confidential

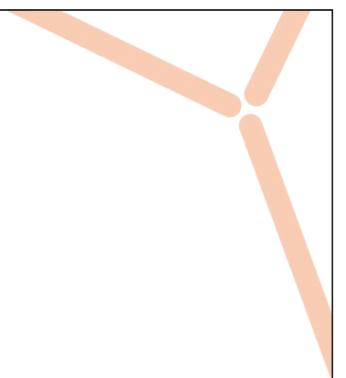
Global production and support bases



Sensitivity - Confidential

MACHINE TOOL

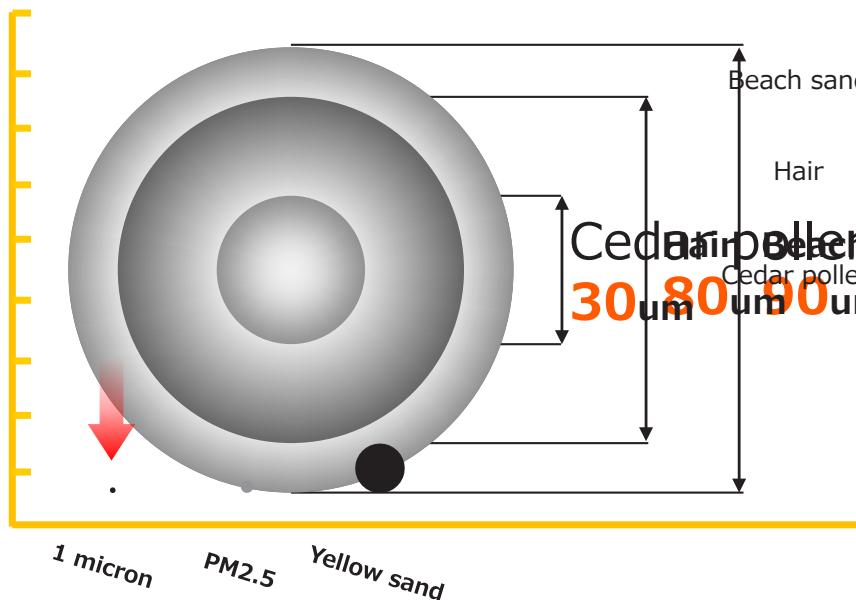
#5

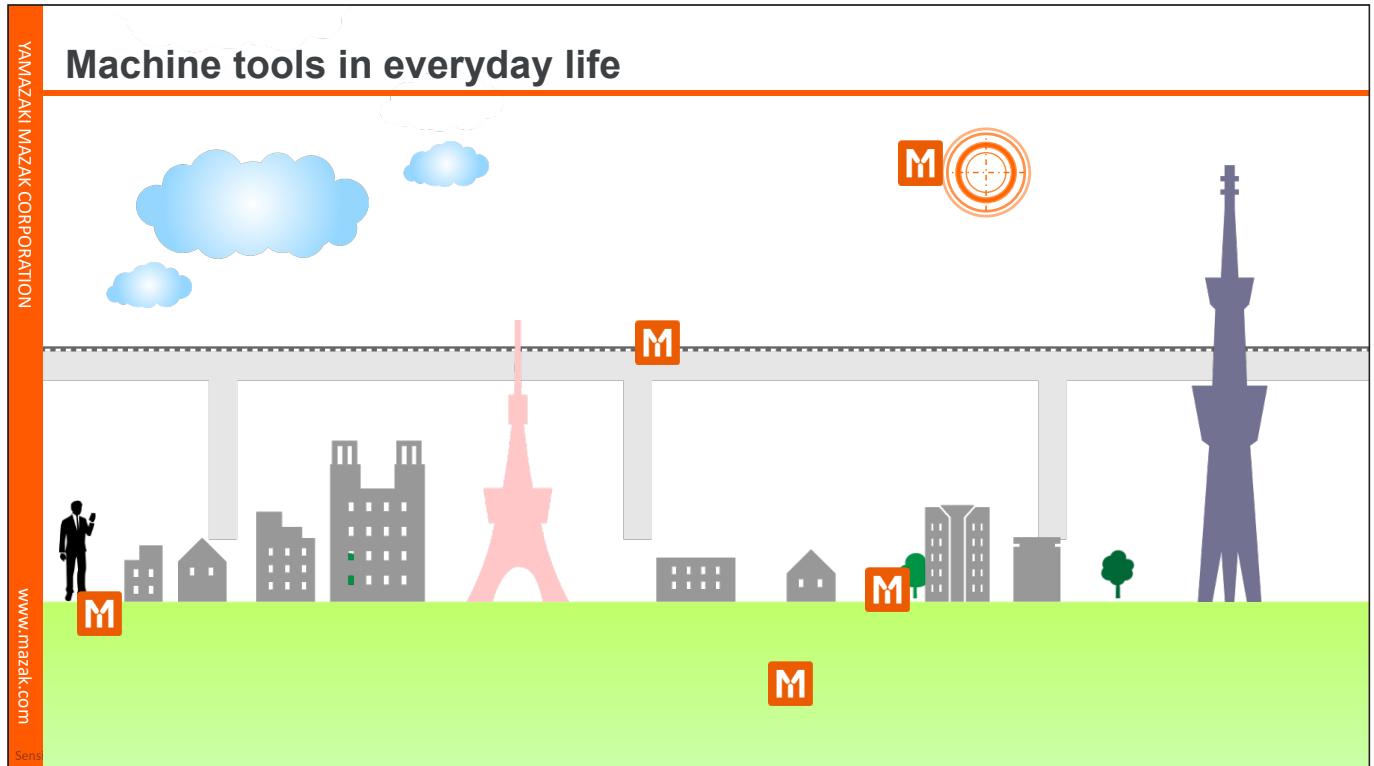


Units used in machine tools

#6

0.1mm







YAMAZAKI MAZAK CORPORATION

www.mazak.com

Sensitivity - Confidential

Approx. 300 Model

The background of the slide is filled with a grid of many small, semi-transparent images of different types of industrial machinery, such as CNC lathes, mills, and robotic arms, arranged in approximately 10 rows and 10 columns.

Mazak's history of factory networking and automation

「Factory is a showroom」

1980's

1981 : Oguchi Plant

FMF Factory

(Flexible Manufacturing Factory)

Vertical / horizontal machining centers
Automatic changing of tool magazines
Computer control of production equipment



1987 : Minokamo Plant

CIM Factory

(Computer Integrated Manufacturing)

Multi-tasking machines
FMS
Tool transport system



1990's

1998 : Oguchi Plant

Cyber Factory

Utilization of internet / IT
PC embedded in
MAZATROL FUSION 640 CNC
Remote monitoring



2000...

2003 : Minokamo Plant

e-Factory

e-BOT CELL 720
720 hours automatic operation system
Intelligent Functions



Sensitivity - Confidential

Mazak's history of factory networking and automation

「Factory is a showroom」

2010's

2016 : Oguchi Plant

2019 : Minokamo Plant 1 and 2

Mazak iSMART Factory™



Sensitivity - Confidential

Mazak's GX (environmental initiatives)

Mazak's approach to decarbonization

Goal for 2030

Carbon footprint

50 % reduction
(compared to 2010 levels)



Sensitivity - Confidential

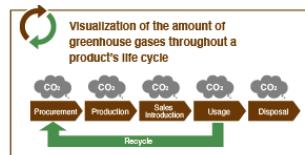
Mazak Go GREEN

Mazak group environmental management vision

We will contribute to the development of a sustainable society by protecting the earth's abundance through environmentally friendly manufacturing.

Mazak group activity policy

We promote corporate activities aiming at "reduction of CO₂ emissions throughout the product life cycle" from procurement, production, and sales, to customer use.



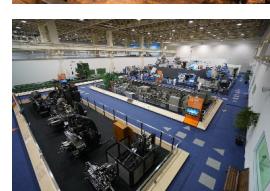
What is a carbon footprint?

It is a "visualization" of the amount of greenhouse gases emitted throughout a product's life cycle, converted into CO₂.

The Yamazaki Mazak Machine Tool Museum

A museum specializing in machine tools

Exhibiting traditional machine tools in working conditions



Exhibiting industrial products machined by machine tools



Manufacturing experience with guidance from highly skilled workers



Sensitivity - Confidential

Grazie per attenzione

Mazak

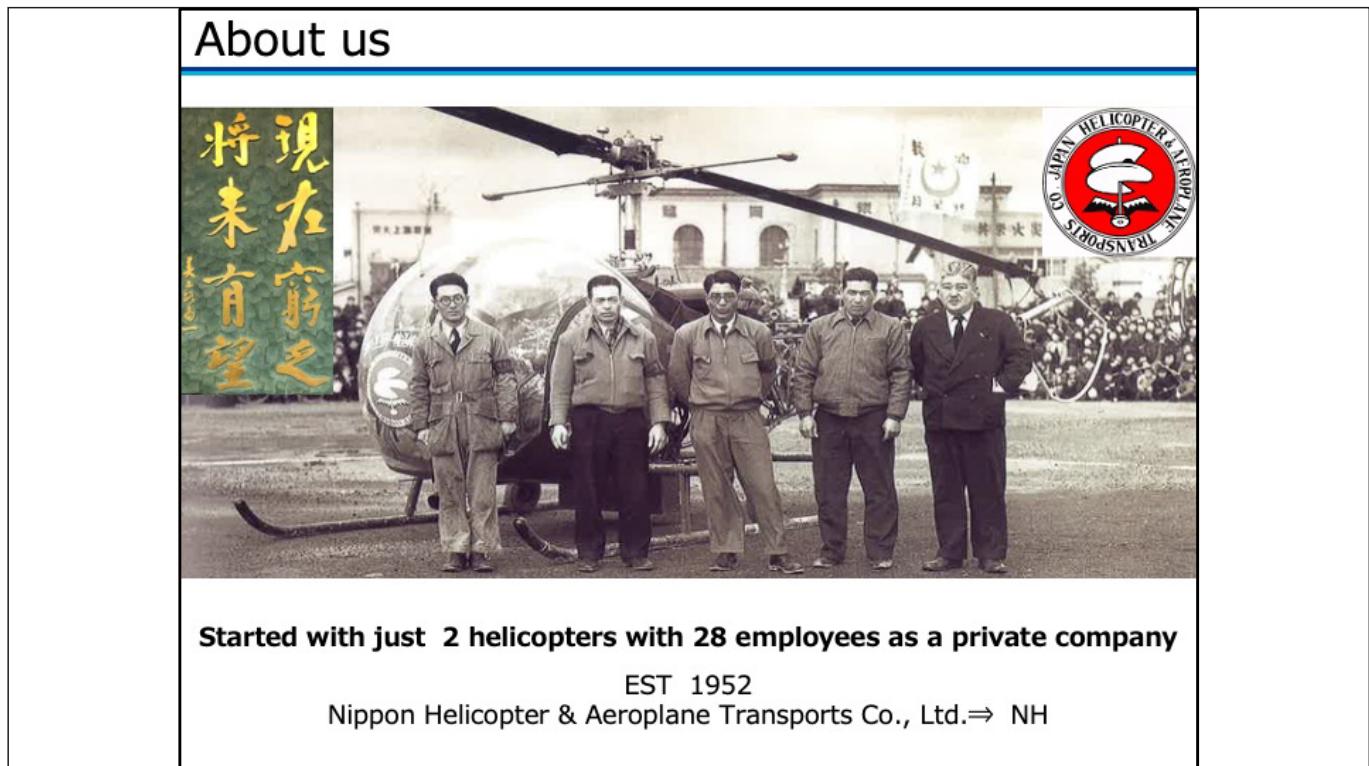
Yamazaki Mazak will continue to move forward together with our customers
And supporting the development of global manufacturing.

芝田 浩二 (ANA ホールディングス 代表取締役社長)

#1

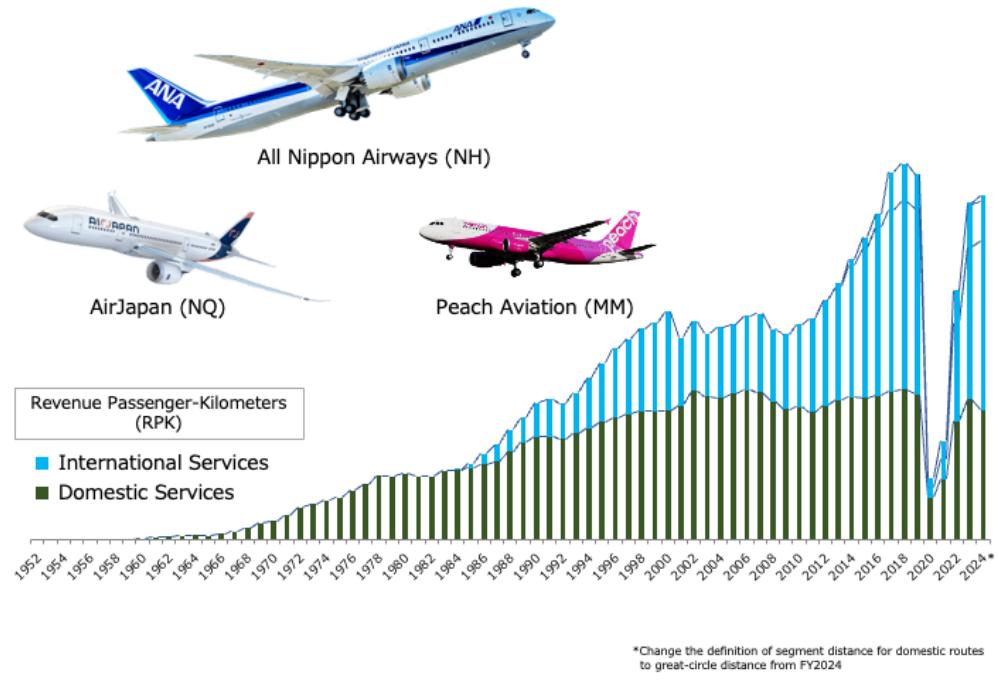


#2



#3

Quick Facts about ANA Group

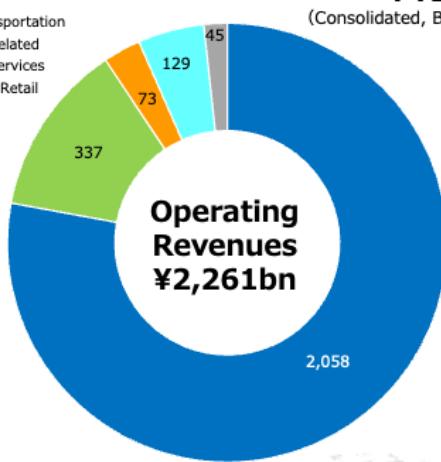


#4

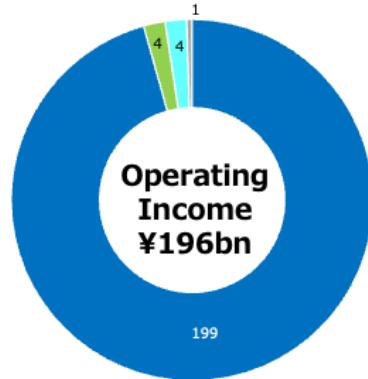
Quick Facts about ANA Group

FY2024
(Consolidated, Before adjustments)

■ Air Transportation
■ Airline Related
■ Travel Services
■ Trade & Retail
■ Others



Operating Revenues
¥2,261bn



Operating Income
¥196bn



61.6 million passengers carried



125 airports, 237 routes

*Excluding routes suspended due to COVID-19

*As of August 1, 2024

*Total of ANA, Peach, AirJapan



41,225 employees

*As of March 31, 2024

Europe Network

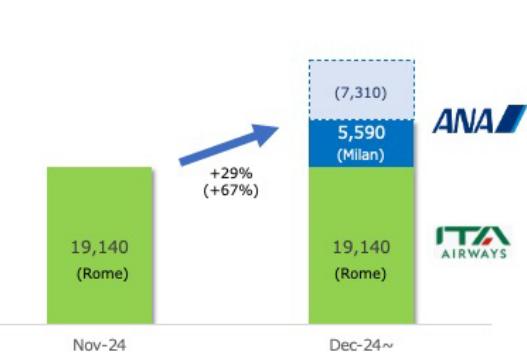
8 Countries 9 Destinations



ANA's partner Airlines
 Lufthansa
 Austrian Airlines
 Swiss International Airlines
 ITA Airways



ANA Flight to/from ITALY



Available seats per month

Haneda to MILAN B787-9 (215)



Business Class	48
Premium Economy	21
Economy Class	146
TOTAL	215



Flight No.	Segment	Dep time	Arr time	Schedule
NH207	TOKYO Haneda=MILAN	00:55	09:20	3 times weekly
NH208	MILAN=TOKYO Haneda	11:20	07:20+1	3 times weekly

#7

ANA Group's Innovation

Communication AI robot called "newme"

Today

Assist customer by remote supporter

In Two years

" in dependent



#8

GRAZIE!



9 イタリア経済概況 (JETRO 提供)

主要経済指標 ウェブ用フォーマット

人口	5,893 万人 (2025 年 1 月、暫定値)
面積	330 万 2,110 平方キロメートル (日本の約 5 分の 4、2024 年)
1 人当たり GDP	3 万 8,326 米ドル (2023 年、推計値)

(△はマイナス値)

項目	単位	2021 年	2022 年	2023 年
実質 GDP 成長率	(%)	8.3	4.0	0.9
消費者物価上昇率	(%)	1.9	8.1	5.7
失業率	(%)	9.5	8.1	5.7
貿易収支	(100 万ユーロ)	48,586	△ 19,770	40,096
経常収支	(100 万ユーロ)	43,258	△ 30,919	9,680
外貨準備高 (グロス)	(100 万米ドル)	84,002	81,715	84,819
対外債務残高 (グロス)	(100 万ユーロ、期末値)	2,467,228	2,490,775	2,542,740
為替レート	(1 米ドルにつき、ユーロ、期中平均)	0.8455	0.9496	0.9248

[注]

貿易収支：国際収支ベース（財のみ）

[出所]

人口、面積、実質 GDP 成長率、消費者物価上昇率、失業率：イタリア国家統計局 (ISTAT)

貿易収支、経常収支、対外債務残高 (グロス)：イタリア銀行

1 人当たり GDP、外貨準備高 (グロス)、為替レート：IMF

イタリアの主要品目別輸出入

(単位：100 万ユーロ、%) (△はマイナス値)

品目	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2022 年	2023 年			2022 年	2023 年		
		金額	金額	構成比		金額	金額	構成比
機械	92,958	101,126	16.1	8.8	42,337	42,843	7.2	1.2
輸送機器	61,019	67,444	10.8	10.5	50,285	62,731	10.6	24.8
金属製品	73,542	65,228	10.4	△ 11.3	73,726	62,217	10.5	△ 15.6
繊維・衣料品・皮革製品	65,295	65,077	10.4	△ 0.3	40,999	39,644	6.7	△ 3.3
食品・飲料・たばこ	52,332	55,348	8.8	5.8	40,470	43,282	7.3	6.9
医薬品	47,713	49,124	7.8	3.0	38,625	38,418	6.5	△ 0.5
化学品	43,433	39,762	6.3	△ 8.5	61,163	53,725	9.1	△ 12.2
その他製造業の製品	34,806	35,995	5.7	3.4	18,333	18,467	3.1	0.7
ゴム・プラスチック・非金属鉱物製品	34,785	32,947	5.3	△ 5.3	22,571	21,914	3.7	△ 2.9
電気機器	30,687	31,756	5.1	3.5	29,086	29,502	5.0	1.4
コンピューター・電子・光学機器	21,578	21,736	3.5	0.7	39,426	39,071	6.6	△ 0.9
燃料・石油精製品	25,244	19,347	3.1	△ 23.4	15,586	12,678	2.1	△ 18.7
木材・木工品・紙製品・印刷物	12,340	10,721	1.7	△ 13.1	16,433	14,098	2.4	△ 14.2
農林水産物	8,374	8,832	1.4	5.5	21,251	21,815	3.7	2.7
鉱物・石油・天然ガス	3,087	2,743	0.4	△ 11.1	113,274	68,971	11.7	△ 39.1
合計 (その他を含む)	626,195	626,204	100.0	0.0	660,249	591,831	100.0	△ 10.4

[注]

EU 域外貿易は通関ベース（輸出は FOB、輸入は CIF）、EU 域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所]

イタリア国家統計局 (ISTAT)

イタリアの対日主要品目別輸出（FOB）[通関ベース]

(単位：100万ユーロ、%) (△はマイナス値)

品目	2022年		2023年	
	金額	金額	構成比	伸び率
繊維・衣料品・皮革製品	1,917	2,155	26.8	12.4
食品・飲料・たばこ	1,712	1,678	20.9	△ 2.0
輸送機器	1,247	1,352	16.8	8.4
機械	623	686	8.5	10.1
医薬品	928	577	7.2	△ 37.9
化学品	502	487	6.1	△ 3.0
その他製造業の製品	365	365	4.5	0.0
コンピューター・電子・光学機器	196	184	2.3	△ 6.3
ゴム・プラスチック・非金属鉱物製品	158	154	1.9	△ 2.5
金属製品	134	154	1.9	15.1
電気機器	150	141	1.8	△ 5.6
木材・木工品・紙製品・印刷物	27	31	0.4	14.7
農林水産物	36	28	0.4	△ 21.4
鉱物・石油・天然ガス	4	4	0.0	△ 14.0
燃料・石油精製品	25	2	0.0	△ 92.1
合計（その他含む）	8,077	8,046	100.0	△ 0.4

[出所]

イタリア国家統計局（ISTAT）

イタリアの対日主要品目別輸入（CIF）[通関ベース]

(単位：100万ユーロ、%) (△はマイナス値)

品目	2022年		2023年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸送機器	1,267	1,840	33.9	45.2
機械	1,249	1,136	20.9	△ 9.0
金属製品	693	659	12.1	△ 4.9
化学品	476	392	7.2	△ 17.6
コンピューター・電子・光学機器	259	269	5.0	3.8
医薬品	408	252	4.6	△ 38.4
その他製造業の製品	235	244	4.5	4.1
繊維・衣料品・皮革製品	230	240	4.4	4.2
ゴム・プラスチック・非金属鉱物製品	221	187	3.4	△ 15.7
電気機器	156	158	2.9	1.0
食品・飲料・たばこ	22	23	0.4	5.1
木材・木工品・紙製品・印刷物	19	18	0.3	△ 7.0
農林水産物	5	7	0.1	38.4
鉱物・石油・天然ガス	3	3	0.0	△ 5.7
燃料・石油精製品	1	0	0.0	△ 76.0
合計（その他含む）	5,255	5,435	100.0	3.4

[出所]

イタリア国家統計局（ISTAT）



第34回

日伊ビジネスグループ 合同会議 開催報告書 2025年5月

発行日:2026年1月

発行人:宮永 俊一

編集人:日伊ビジネスグループ事務局 〒100-8332 東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室 地域戦略部内